

総務委員会・分科会 会議記録

- 1 期 日 令和元年9月17日（火）
午前9時26分 開会
午後2時50分 閉会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 副委員長 浅田 徹
委員 芦田 竹彦、足田 仁司、
清水 寛、村岡 峰男
- 4 欠席委員 委員長 井垣 文博
委員 椿野 仁司
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼議事係長 佐伯勝巳
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

総務副委員長・副分科会長 浅田 徹

総務委員会（分科会）次第

2019年9月17日（火）9：30～
第1委員会室

1 開会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 分担案件の審査について〔別紙：議案付託表・分科会分担表〕

(2) 分科会意見・要望のまとめ

(3) その他

4 閉会

令和元年第2回豊岡市議会（定例会）議案付託表

【総務委員会】

- 報告第16号 平成30年度決算に係る健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
- 第69号議案 豊岡市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例制定について
- 第70号議案 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例制定について
- 第76号議案 豊岡市手数料条例の一部を改正する条例制定について
- 第94号議案 平成30年度豊岡市管理会財産区特別会計歳入歳出決算の認定について

予算決算委員会付託議案に係る分科会分担表

【総務分科会】

第77号議案 令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第2号）

第87号議案 平成30年度豊岡市一般会計歳入歳出決算の認定について

※ 第77号議案及び第87号議案中の人件費分は、総務分科会に一括分担する。（以下同じ。）

総務委員会（分科会） 審査日程表

審査日程	所管（出席対象）部署	審査内容
<p>9月17日（火） 9：30～</p> <p>第1委員会室</p>	<p>【議会事務局】</p> <p>【政策調整部】 秘書広報課、政策調整課、 財政課、公共施設マネジメント推進室、 防災課</p> <p>【地域コミュニティ振興部】 コミュニティ政策課</p> <p>【各振興局】 地域振興課（総務担当）</p>	<p>【分科会】</p> <p>《H30年度一般会計決算認定議案》</p> <p><説明、質疑、討論、表決></p> <p>○第87号議案</p> <p>・主要事業等の説明 (必要に応じて実質収支調書、財産調書等の説明)</p>
<p>9月17日（火） 13：00～</p> <p>第1委員会室</p>	<p>【政策調整部】 財政課</p> <p>【総務部】 総務課、ワークインノベーション推進室、 人事課、情報推進課</p> <p>【市民生活部】 税務課</p> <p>【会計管理者】 会計課</p> <p>【消防本部】 総務課、予防課、 豊岡消防署（警防課）</p> <p>【選管監査委員事務局】</p>	<p>《分科会審査意見、要望のまとめ》</p>
<p>9月18日（水） 9：30～</p> <p>第1委員会室</p>	<p>【議会事務局】</p> <p>【政策調整部】 秘書広報課、政策調整課、 財政課、公共施設マネジメント推進室、 防災課</p> <p>【総務部】 総務課、ワークインノベーション推進室、 人事課、情報推進課</p> <p>【地域コミュニティ振興部】 コミュニティ政策課</p> <p>【市民生活部】 税務課</p> <p>【各振興局】 地域振興課（総務担当）</p> <p>【会計管理者】 会計課</p> <p>【消防本部】 総務課、予防課、 豊岡消防署（警防課）</p> <p>【選管監査委員事務局】</p>	<p>【委員会】</p> <p>《議案》</p> <p><個別に説明、質疑、討論、表決></p> <p>○報告第16号</p> <p>○第69号議案 ○第70号議案</p> <p>○第76号議案 ○第94号議案</p> <p>【分科会】</p> <p>《令和元年度一般会計補正予算議案》</p> <p><個別に説明、質疑、討論、表決></p> <p>○第77号議案</p> <p>・主要事業等の説明</p> <p>《分科会審査意見、要望のまとめ》</p> <p>《委員会審査意見、要望のまとめ》</p>

※ 初日（9/17）は、総務分科会審査（H30一般会計決算認定議案）を行い、2日目（9/18）は、総務委員会審査（条例等の議案）と総務分科会審査（R元一般会計補正予算議案）を行います。

※ 総務分科会での予算議案の説明は、基本的に①概要（財政課）、②人件費（人事課）、③主要事業等（組織順で課ごとに、説明事項の全てを一気に説明。）の流れでお願いします。

令和元年度 豊岡市議会総務委員会名簿

令和元年9月17日

【総務委員】

委員長	井垣 文博
副委員長	浅田 徹
委員	芦田 竹彦 足田 仁司 清水 寛 椿野 仁司 村岡 峰男

5名

【説明員】

議会事務局	
議会事務局長	松本 幹雄
議会事務局次長	宮本 ゆかり
政策調整部	
政策調整部長	塚本 繁樹
政策調整部参事 (行財政改革担当)	正木 一郎
政策調整部次長兼公共施設マネジメント推進室長	土生田 哉
秘書広報課長	山口 繁樹
秘書広報課参事	和田 征之
政策調整課長	井上 靖彦
財政課長	畑中 聖史
防災監	宮田 索
防災課長	原田 泰三
総務部	
総務部長(会計管理者)	成田 寿道
総務部次長兼ワークイノベーション推進室長	上田 篤
総務課長	安藤 洋一
総務課参事	宮代 将樹
ワークイノベーション推進室参事	岸本 京子
人事課長	山本 尚敏
人事課参事	小川 琢郎
情報推進課長	中奥 実

地域コミュニティ振興部	
コミュニティ政策課長	土生田 祐子
市民生活部	
税務課長	安達 央
城崎振興局	
地域振興課長	谷垣 一哉
竹野振興局	
地域振興課長	福井 正幸
日高振興局	
地域振興課長	和藤 達也
出石振興局	
地域振興課参事	村上 忠夫
但東振興局	
地域振興課長	大石 英明
会計課	
会計課長	三笠 孔子
消防本部	
消防長	松岡 勇人
消防本部次長兼総務課長	榊田 貴行
豊岡消防署長兼警防課長	吉谷 洋司
予防課長	丸谷 正人
総務課参事	中地 修
選挙管理委員会・監査委員事務局	
選管監査事務局長	宮岡 浩由

33名

【担当事務局職員】

議会事務局主幹兼議事係長	佐伯 勝巳
--------------	-------

計 39名

午前9時26分 委員会開会

○副委員長（浅田 徹） 皆さん、おはようございます。

定刻、少し早いわけですが、皆さん、おそろいになりましたので、ただいまから総務委員会を開催したいと思います。

井垣委員長が欠席しておりますので、豊岡市議会委員会条例第10条第1項の規定によりまして、副委員長であります私がかかわって委員長の職務を行いますのでよろしくお願いいたします。

また、きょう、椿野委員も欠席ということで、委員会、ちょっと寂しいなという思いがするわけですが、よろしくお願いいたします。

さて、9月に入りました。冒頭、一般質問でも言いましたように、大宰府天満宮と令和神社の公式参拝をしてきました。また、そのおかげをもちまして非常にきょうも日よく風やわか、そんな心境でありますので、爽やかに進めてみたいと思います。お二人の欠席のように、今、夏の疲れが出る時期かなと思います。委員の皆さん、職員の皆さん方は十分健康にご留意して職務にご尽力いただきたい、こんな気持ちでございますので、ひとつよろしくお願いいたします。

それでは、まず、この委員会、きょう、あすの2日間の審査の予定についてお知らせしたいと思います。審査の順序でございますが、お手元の審査日程表のとおり議案の順序を変更しまして、本日は当分科会に分担されました第87号議案、一般会計決算認定議案の説明、質疑、討論、表決までを行い、その後、本日の分科会審査の意見、要望まとめを行う予定であります。あすはまず当委員会に付託されました議案の審査として個別に説明、質疑、討論、表決を行います。次に、分科会に分担された議案の審査として、個別に説明、質疑、討論、表決を行っていきます。その後、分科会審査の意見、要望のまとめを行い、さらに委員会審査の意見、要望のまとめを行っていききたいというふうに思っております。

本日の当局出席者についてでございますが、審査

日程表に合わせまして、午前、午後に分けて所管部署の職員の皆さんに出席いただくよう要請しておりますので、ご了承よろしくお願ひしたいと思います。

委員の皆さんには、総務委員会次第とは別に審査のための資料をお配りしております。資料の右肩に議案番号を記載しておりますので、それを見ながら審査をよろしくお願ひしたいと思います。

委員の皆さん並びに当局職員の皆さんにおかれましては、質疑、答弁につきまして、要点を押さえ簡潔明瞭に行っていただき、スムーズな議事進行にご協力をよろしくお願ひいたします。

なお、委員会及び分科会での発言は、副委員長、副分科会長の指名の後に、マイクを使用して必ず課名と名字を名乗ってから、説明に当たりましては資料のページ番号をお知らせいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、ここで委員会を暫時休憩します。

午前9時30分 委員会休憩

午前9時30分 分科会開会

○副分科会長（浅田 徹） 分科会を開会します。

それでは、これより3協議事項、1の分担案件の審査について入っていききたいと思います。

それでは、第87号議案、平成30年度豊岡市一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

第87号議案中、当分科会に審査を分担されたのは、所管事項に係る歳入歳出決算書、実質収支に係る調書、財産に関する調書等についてでございます。

十分な質疑時間を確保するために、当局の皆さんにおかれましては、新規事業や前年度から大きな変更のあった事業及び主要事業等を主に説明をしていただくようよろしくお願いいたします。

当局の説明は、まず、決算概要について、財政課長からご説明をいただき、その後、組織順で課ごとに所管に係る歳入歳出、実質収支調書、財産調書等を続けてご説明をお願いします。

質疑は説明が終わった後に一括して行います。

それでは、早速説明をお願いしたいと思います。

まず、畑中財政課長のほうから全体概要ということでお願いします。

はい、どうぞ。

○財政課長（畑中 聖史） それでは、平成30年度決算認定議案に関しまして一般会計決算について概要をご説明させていただきます。

まず、決算書をごらんいただきたいと思います。決算書の600ページ、601ページでございます。後ろのほうになっておりますが、実質収支に関する調書でございます。600ページ、601ページでございます。平成30年度の一般会計の決算額ということで、一番左が一般会計でございますけれども、歳入総額が470億1,238万6,000円、単位1,000円でございますが、歳出総額が449億8,393万3,000円ということになっております。翌年度への繰越財源12億560万6,000円を除きました実質収支額が8億2,284万7,000円の黒字ということになっております。前年度の実質収支額との差し引きであります単年度収支額ということで、参考の欄の上から2段目になります。これが203万4,000円の黒字ということになっております。

また、年度中の財政調整基金への積立金や取り崩し額など、黒字、赤字要素を加味しました実質単年度収支につきましては、一番下段になります。3億7,549万6,000円の赤字ということになってます。これは地方財政法で積み立てが必要とされております平成29年度、前年度になります。30年度決算から見ますと前年度の剰余金の2分の1以上を積み立てるということになってますが、これを4億2,000万円、財政調整基金ではなく公共施設整備基金に積み立てたことによることが要因となっております。この実質単年度収支につきましては、あくまでも財政指標上の赤字であるという点でご理解をいただきたいと思います。

一般会計決算につきましては、歳入は地方消費税交付金ですとか自動車取得税交付金などが増額と

なった一方で、市税、地方交付税繰入金などが減額となりまして、全体として対前年度比89億627万7,000円、15.9%の減となっております。

戻っていただきまして、決算書の7ページをごらんいただきたいと思います。そこがございますように、済みません、その前に先ほど言いました地方交付税ですけれども、普通交付税は合併算定がえの縮減50%の影響などによりまして、約1億4,000万円の減ということでございます。また、平成29年度に財政調整基金から公共施設整備基金へ70億円積みかえましたことが大きく原因となりまして、繰入金が大きく減少、決算額としましても大きく減少しております。まずその辺をご理解いただきたいと思います。

それでは、決算書の7ページでございますけれども、総括表ということでございます。先ほどは1,000円単位で申し上げましたけれども、一般会計の歳入総額、歳出総額はそちらに記載のとおりになっております。

翌年度の繰越額、実質収支額につきましては、8億2,284万7,354円という黒字となっております。黒字の要因といたしましては、歳入では歳出予算と比較して市税収入が約9,100万円増額となっております。一方、歳出では、扶助費ですとか除雪経費などの執行残、また、繰越明許費の入札残などで総額9億1,400万円程度の不用額が生じておりまして、8億2,000万円の实質収支となっております。

それでは、次に、8ページ、9ページをごらんいただきたいと思います。歳入歳出決算款別総括表ということでございます。

9ページの左の一番下、歳入の合計欄ですけれども、収入済額といたしましては、先ほど申し上げました470億1,238万6,432円ということでございます。主なものですけれども、地方交付税は先ほど申し上げたとおりとなっております。14の国庫支出金でございますが、臨時福祉給付金給付補助金が約2億4,000万円減少したこと、また、住宅分の社会資本整備総合交付金というものがあ

りまして、これが約2億5,000万円減少したことにより、国庫支出金約4億円の減少となっております。18の繰入金ですけれども、先ほど来申し上げております財政調整基金から公共施設整備基金への積みかえ、これが平成29年度でございまして、この影響で約74億4,800万円の減ということでございます。また、20の諸収入につきましても約3億6,000万円の減額となっております、これは平成29年度に円山川運動公園の移転補償金が入っていたわけなんですけれども、これが減少したということでございます。また、自主財源の比率でございますけれども、30年度決算一般会計では自主財源34.6%ということになっております。昨年度は43.6%ということで、9ポイント下がっておる状況になっておりますが、先ほど来申し上げております財政調整基金から公共施設整備基金への積みかえにより自主財源が大きくなったということございまして、これが積みかえがなかった場合の平成29年度の自主財源比率としましては、35.5%ということございまして、実際でしたら0.9ポイントほど下がっているということになるかと思えます。

次に、不納欠損でございますが、9ページの真ん中の列の最下段に書いてございますが、6,213万2,675円ということでございます。収入未済額の総額はその隣ですけれども、15億3,759万7,744円ということになっております。収入未済額から繰越事業の未収入特定財源であります国庫支出金ですとか負担金等、これらが収入未済額としまして8億7,049万6,937円でございます。こちらを控除しましたら6億6,710万円、約6億6,700万円が実質の滞納額ということになるものでございます。

続きまして、10ページ、11ページをごらんいただきたいと思えます。歳出のほうでございます。

歳出では、11ページ左側の一番下でございます。支出済額としましては、先ほど来申し上げておりますとおり、449億8,393万3,015円ということでございます。主な歳出額の増減でございま

すと、総務費が昨年度よりも約73億8,000万円減と、繰返しですけれども、基金の積みかえ70億円がこの要因となっております。8の土木費ですけれども、これが昨年度よりも約9億5,000万円減となっております。雪害対策費としまして約2億3,000万円、それから普通建設事業としまして約8億2,000万円減額になっていることによるものということでございます。また、12の公債費につきましましては、市債元金が平成29年度より約17億8,000万円大幅に減となっております。これは平成29年度に空港周辺整備事業に係ります起債約17億円ですけれども、これを満期一括償還したことによるものでございます。

11ページの中ほどの列で、翌年度繰越額の欄の一番下段でございます。歳出の合計としましては27億9,300万3,000円ということになっております。この金額を翌年度に繰り越すということでございます。その右側の不用額につきましましては、先ほどもちらっと申し上げましたが、9億1,423万4,985円と、これが実質収支額の黒字になる大きな要因というようなことでございます。

主な財政指標につきまして、概要を説明させていただきたいと思えます。皆さんお持ちの資料編というファイルの中をごらんいただきたいと思うんですけども、背表紙に資料と書いてある……。その中に令和元年9月議会提出予定議案という資料がございまして、その最終ページに、31ページになりますが、主要な財政指標ということで財政指標を掲げております。平成28年度から30年度の主要な財政指標を普通会計ベースで記載しておるものでございます。

普通会計ですけれども、一般会計に診療所事業及び霊苑事業の特別会計を加えるなどの調整を行ったものでございまして、ちょうど31ページの真ん中あたりに経常収支比率ということで数字が上がっております。平成30年度につきましましては90.5%ということで、平成29年度が91.3%でございますので、0.8ポイント改善をしてるというようなことが見てとれます。この主な原因としまし

ては、30年度の歳入のうち経常一般財源が約289億5,000万円ぐらいでございます。これが対前年度比1億9,900万円、約2億円減額となっております。主な理由としましては、普通交付税の約1億4,000万円の減額ということが効いております。

また、歳出では、経常一般財源を充当いたします経常的経費というのがございまして、これが約262億円でございまして、これが対前年約4億円減額となっておりますということでございます。主な要因としましては公債費が約4億2,000万円ほど減額となっていることによるものなんですけれども、経常一般財源のほうも0.7%減少しておるんですけども、一方、経常一般財源を充当する経常的経費、歳出のほうも1.5%減少していると。歳入も0.7%減少しておりますが、歳出が1.5%減少するというようなことで実質収支比率が0.8ポイント改善したというような結果となっております。

その下に、2つ下に実質公債費比率と将来負担比率ということでございますけれども、これはあしたの健全化判断ということで、報告第16号のほうで詳細を説明させていただきたいと思っております。

なお、決算の状況の資料としましては、別に豊岡市決算の概要という資料を配付させていただいております。こういった豊岡市決算の概要ということで、中を開いていただきますと、グラフとかを多用して過去10年間の数字とかを載せております。かなりわかりやすいというように思っておりますので、こちらのほうもまたごらんいただきたいと思います。

一般会計の概要につきましては以上のとおりでございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、順に宮本議会事務局次長からお願いしたいと思います。

次長。

○事務局次長（宮本ゆかり） それでは、ここから各課からの個別説明に入らせていただきます。

まず、歳出についてご説明いたします。決算書84ページ、85ページをお開きください。こちら、議会費になっております。

まず、人件費ですが、人件費のうち議員等に係る人件費は、一番上の議員報酬、それから10行ほど下の議員期末手当、それからその下の議員共済組合負担金、その下、非常勤職員公務災害補償保険料、合わせまして総額1億9,017万8,858円となっております。こちらのほうは29年度の決算額と比較いたしますと1,200万5,244円の増額となっております。この要因といたしましては、平成29年10月に一般選挙が行われ、議員数が定数の24人となりました。平成30年度は年度当初からこの24人分の支払いとなりましたことにより増額が主な要因となっております。

それでは、その下、議会管理費になります。1,485万6,225円となっております。対前年で78万1,350円の減額となっております。若干各費目の増減はございますが、主な要因といたしましては、29年度には議場の音響設備のリチウム電池を交換いたしまして、72万円ほどの支出がございました。それが単年度で終わっておりますので、30年度には減額が発生したというふうに考えております。

その下、議会運営活動費になっております。756万3,246円、対前年比で188万2,267円の減額となっております。こちらのほう、29年度に正副議長室及び会派控室のパソコンの更新を行いまして、160万円程度かかっておりました。それが単年度で終わっておりますので、その分が30年度には減額となったことが主な要因だというふうに考えております。

続きまして、歳入になります。77ページをごらんください。77ページ、雑入になります。上から9行目あたりに災害見舞金がございます。251万3,338円のうち、議会事務局分は12万4,538円となっております。これは平成30年度の7月豪雨災害に対する見舞金になっております。全国市議会議長会から5万円、それから近畿市議会議長

会から3万円、兵庫県の市議会議長会から4万4,538円、見舞金や義援金を頂戴しております、総額12万4,538円となっております。

議会事務局からは以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございますました。

次に、山口秘書広報課長。

○秘書広報課長（山口 繁樹） それでは、同じく決算書の89ページをごらんください。中段少し下にあります秘書渉外費でございます。前年度比較で64万9,083円の減となっております。これにつきましては、普通旅費の減や功労者等のお葬式の件数が少なかったことによる交際費の減が主な要因です。

続きまして、同じページの最下段から91ページ上段の表彰栄典費でございます。功労者表彰や感謝状贈呈のための経費です。これにつきましては、前年度比較で35万3,307円の減となっております。功労者表彰におきまして、一昨年よりも自治功労者が7名少なかったことによるものです。

続きまして、93ページをごらんください。最下段から95ページの上段にあります広報広聴事業費でございます。市広報等の発行や市のホームページ管理のための経費です。これにつきましては、前年度比較で1,461万7,965円の増となっております。昨年度は市のホームページシステムをリニューアルしております、これに係る業務委託料が純増となっていることによるものです。

続きまして、103ページをごらんください。中段少し下の多文化共生推進事業費でございます。民間の国際交流協会などの日本語教室の運営増に対する補助金などの経費です。これにつきましては、前年度比較で97万1,291円の減となっております。一昨年に行いました在住外国人のための生活便利帳の作成、これの初期費用がなくなっていることによるものです。

続きまして、同じページの下段にあります国内交流推進事業費でございます。これにつきましては、隔年で開催しております姉妹都市の上田市への市

民バスツアー、これがある年でありましたので、前年度比較で7万8,625円の増となっております。

続きまして、歳入で65ページをごらんください。下段の雑入のうちの広告料でございます。このうち市広報での広告料は増減なし、市ホームページへの広告料は件数が7件減少したことにより63万円の減となっております。

続きまして、ほぼ最後のページ、613ページをごらんください。有価証券でございます。上から3つ目、株式会社FMたじまで500万円ありまして、前年度と増減はございません。

秘書広報課は以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございますました。

続きまして、井上政策調整課長、お願いします。

○政策調整課長（井上 靖彦） まず、歳出でございます。93ページをごらんください。中ほどから少し下になりますが、行革推進事業費32万1,093円でございます。これにつきましては、行革委員会の運営に係る事務費と業務の改善に関する職員の視察や職員向けの講演に係る費用でございます。

その下、戦略的政策評価事業353万3,243円は、戦略的政策評価を推進するための職員研修や政策モニタリング調査に係るものでございます。主なものですが、業務委託料216万5,400円がございます。これは2つございまして、一つは職員に対して戦略的政策評価の研修を5日間にわたって行うものです。平成29年度までは東京に職員を派遣して研修を行ってききましたが、平成30年度から豊岡市で実施をしております。もう一つは昨年度から基本構想に基づいた戦略体系図を作成したため、新たな指標を設定し、それを図るため、モニタリング調査の質問を新たに検討するというところを行って、その委託を同じく行っております。

その上になりますが、通信運搬費92万714円は、政策モニタリング調査に係る郵送料でございます。実施時期を7月から1月に変更したため、昨年度は2回この調査を行っております。よって、前年より増額となっております。今年度からはまた1回

に戻っております。

続きまして、103ページをごらんください。上段のほうにございます企画調整費でございます。2,836万7,601円です。これにつきましては、定住自立圏構想、広域連携、国県要望などに係る費用でございます。報償金の3万6,000円につきましては、定住自立圏共生ビジョンを検討する委員の謝礼でございます。負担金2,782万8,000円は但馬広域行政事務組合及び但馬自治会等への負担金となっております。

続きまして、109ページをごらんください。最上段、地方創生推進費です。1,276万2,689円のうちUIターン戦略室と総務課及び大交流課を除いた242万6,698円が政策調整課所管分でございます。地方創生戦略会議の開催と地方創生の全体調整等に係る事業になります。

中段になりますが、国庫負担金等精算返納金につきましては、出石観光センター機能強化事業補助金の返納金を県へ返金したものでございます。

続きまして、111ページをごらんください。中段の戦略的政策分野研究費448万9,570円です。昨年度、戦略的政策室が行っていた慶應大学との共同研究と課税データを用いた相対的貧困率の算出に係る費用でございます。負担金の地域研究事業費150万円は、SDGsの視点による住み続けられるまちづくりの研究で、但東町高橋地区及び但東中学校をフィールドに実施をしております。その下、地方自治体政策検証事業200万円は、ジェンダー課題に関する調査研究に係るもので、市内女性等18名へのヒアリング調査と分析を行っております。

続きまして、歳入の説明をさせていただきます。38ページ、39ページをごらんください。

下段のほうになります国庫補助金の20目地方創生推進交付金でございます。1億3,825万7,599円です。この交付金は地方創生総合戦略に掲げた事業のうち、英語教育、コミュニケーション教育推進、UIターンプロモーション、コウノトリ育むお米のブランド化推進など、39事業に対して対

象経費の2分の1の交付を受けているものでございます。

続きまして、48ページ、49ページをごらんください。これも下段のほうになりますが、県補助金の12目ひょうご地域創生交付金でございます。5,949万2,457円です。この交付金は国の地方創生推進交付金に該当しない事業を県が独自に支援をするものでございます。平成30年度に創設されました。ワークイノベーション戦略、キャリアデザインアクションプラン戦略の策定、観光ビジョン策定、婚活イベント等、30事業に対して、こちらも対象経費の2分の1の交付を受けております。

最後に、75ページをごらんください。最下段になります。先ほど歳出のところで説明いたしました出石観光センターの機能強化事業の補助金の返納金でございます。148万1,481円です。これは平成27年度地方創生関連交付金を活用した出石観光センター機能強化事業補助金2,000万円に含まれる消費税相当額を事業者から返納を受けたものでございます。以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、畑中財政課長、担当課分をお願いします。

○財政課長（畑中 聖史） 歳出から説明させていただきます。

まず、87ページをごらんいただきたいと思えます。一番下段の一般管理費ということですが、財政課所管分の主なものとしまして89ページの真ん中からやや上のところに業務委託料がございまして、公会計システム構築業務というのがございます。482万7,600円でございますが、これはいわゆる財務4表といいます財務書類の作成と公会計システムの導入に係る経費ということになっております。

少し飛びまして、95ページをごらんいただきたいと思えます。中段やや下に財政管理費がございしますが、そのもうちょっと下のほうに業務委託料の財務会計システム改修業務ということで、91万8,

000円がございませう。これは新元号対応のためのシステム改修経費ということでございませう。

99ページをござんいただきたいと思ひませう。99ページ真ん中よりやや上ですけれども、土地管理費ということでございませう。主に財政課所管の普通財産の管理を行う経費となっておりますが、その中で数行下ですけれども、解体工事費ということで712万8,000円、倉庫ということになっておりますけれども、これが老朽化した旧JAの内川支店と旧自衛隊倉庫と呼んでる倉庫がございまして、それが老朽化して危険だということで解体した経費となっております。

その下に基金管理費でございませうけれども、基金管理費の中の財政調整基金ということでございませう。このうち1億963万円のうち1億円が財政課所管分でございまして、特別交付税の確定に伴いまして、専門職大学に対して8億円の寄附を行うということをしてございませうけれども、その寄附に対して事前に基金へ積み立てを行って行くということで1億円積み立てたものとなっております。

それから、めくってございまして、101ページでございませう。ちょっと真ん中あたりになりますけれども、公共施設整備基金積立金ということで4億2,000万円でございませう。先ほど来説明してございませうけれども、平成29年度の決算剰余金、歳計剰余金をこちらのほうに積み立てたということでございませう。

少し飛びませうけれども、436ページ、437ページをござんいただきたいと思ひませう。公債費のページになってございませう。市債の元金、利子、一時借入金の子でございませうけれども、まず437ページの1つ目にあります市債元金でございませう。これが昨年度よりも約17億8,000万円、22.0%の減となっておりますが、先ほど申し上げましたが、平成29年度に空港周辺整備事業に係る起債、約18億円を満期一括償還したことによるということでございませう。

また、その下にあります市債利子でございませう。昨年度より約7,500万円の減で15%程度減つ

ておるといふ状況でございませう。

それから、真ん中よりちょっと下ですけれども、土地取得費ということで、1億580万8,451円でございませう。これは土地開発基金で所有している土地を買い戻すといふものでございまして、一つはずっと続けてございませう竹貫の太陽光発電の収益によりまして土地開発基金から土地を買い戻すといふ分がございまして、これが3,950万円となっております。今回2,414.67平米を買い戻すことがございませう。全体で3万1,394.53平米、3万1,400平米ほどございまして、そのうち30年度末で29.3%買い戻しができたといふことでございませう。この1億580万円のうち、あと2件ございまして、豊岡市昭和町にあります土地を4,663万円ほどで買い戻した分と、江本の土地を2,322万円ほどで買い戻したものでございませう。

その下にございませう市債管理基金積立金でございませう。これはのじぎく債の満期一括償還の財源として9,000万円を積み立ててございませう。

それと、436ページの一番下にあります予備費でございませう。予備費でちょうど真ん中あたりにマイナス表示で884万円ということになってございませう。この884万円が予備費から流用したといふことでございまして、主には大阪北部地震の被災地支援のために職員が行ったわけなんですけれども、その旅費などがございまして、全部で64件予備費流用をしておるといふ状況でございませう。

続きまして、歳入でございませう。戻ってございませう20ページ中段やや上の地方譲与税から始まりまして24ページの交通安全対策特別交付金までが財政課所管となりますが、この中では増減の大きいものについてご説明をさせていただきますと思ひませう。

23ページで上から2つ目にあります株式等譲渡所得割交付金、これが4,297万9,000円でございませうが、前年度より2,292万5,000円、34.8%の減となっております。

その下の地方消費税交付金ですけれども、15億

293万1,000円ですが、前年度より7,269万6,000円、5.1%の減となっております。

その2つ下の自動車取得税交付金ですけれども、1億5,980万9,000円ですが、前年度より2,852万3,000円、21.7%の増となっております。

それから、24ページをごらんいただきたいと思えます。一番上、地方交付税でございますが、総額では177億7,466万4,000円となっておりますが、25ページ上段にありますように、普通交付税が152億7,000万円余り、これが前年度よりも1億3,923万7,000円の減ということになっております。また、特別交付税につきましては、最終的に25億134万1,000円ということになっておりますが、例年、全国でもトップクラスの交付を受けておったんですけども、30年度につきましては全国で21番目というような状況でございます。雪が降らなかったことが大きく影響してるのかなというふうに考えております。

それから、少し飛ばしていただきまして、53ページをごらんいただきたいと思えます。下から2つ目の土地売却収入ということで、1億617万4,892円でございますが、このうち財政課分としましては、1億299万円余りということでございます。主なものとしましては、出石町の袴挟にありました旧農工団地という土地を約2万9,000平米ほどあるんですが、これを5,400万円で売却しました。また、旧東保育園の土地、これが約1,700平米ほどあるんですが、これは建物つきで1,450万円で売却したもの、また、九日市下町に以前土地開発公社が保有してた土地がありましたが、それを1,290万円で売却したものなどでございます。

それから、59ページをごらんいただきたいと思えます。真ん中あたりに太陽光発電事業特別会計繰入金ということで6,400万円余りありますが、このうち財政課所管分としましては3,595万円ということで、先ほどから言っておりますが、売電収入をもとに土地開発基金から土地を買い戻すも

のということでございます。

それから、その2つ下になりますが、財政調整基金の繰入金でございます。財調基金としましては5億4,240万5,000円繰り入れておりますが、いわゆる財源不足として繰り入れた分としましてはこのうち5,000万円ということになっております。

それから、その下の市債管理基金でございますが、3億1,826万8,000円でございます。このうち平成24年度許可債でのじぎく債を発行しておりますが、3億円ですが、これを借りかえせずに全額返済ということで1億5,000万円繰り入れております。また、庁舎整備事業費の起債ということで1億6,100万円繰り入れておるところでございます。3億1,826万8,000円から差し引きしますと、それ以外に726万8,000円でございます。これは過疎ソフト事業の借入れに係る交付税未算入部分の償還に充てるために取り崩しを行ってるということでございます。

続きまして、財産調書のほうをお願いしたいと思います。財政課所管分としまして608ページ、609ページ、たくさん項目がありますけれども、まず、宅地の部分の上から4行目に、下水道事業代替地、その6行ほど下になりますが、旧城南保育園、さらにそこから6行ほど下に旧東保育園、その2行下に豊岡市九日市下町、さらにその下に寿分譲宅地残地、そこからまた数行下に日高日置宅地、さらに二、三行下の豊岡警察署庄境駐在所というところがございます。こちらのあたりの土地を民間及び国に売却しております。

また、次に、山林の欄にございます上から3行目に口小野右岸開発事業ということがございます。それからその下の雑種地の中に、上から4行目、旧農工団地予定地ということですが、先ほど出石町袴挟の土地を売りましたとご説明いたしましたが、それがこの分になります。それからその他のところの上から2行目で旧竹貫分譲地ということで、これが竹貫の地場ソーラーの分と、売電収入を財源として土地開発基金から買い戻して普通財産にしているとい

うこととございます。

610ページ、611ページをごらんいただきたいと思ひます。普通財産の建物とございます。610ページの旧東保育園園舎についてというのは、先ほど江本の建物つきで売却したということで説明しましたけれども、それがこの分となります。また、その下の元自衛隊倉庫と611ページの上から1行目の旧JA内川支店ということ取り壊しとありますけれども、この2つを危険だということで取り壊しを行っておるといふこととございます。

614ページに出資による権利ということとつけさせていただきますけれども、財政課分は変更はございません。上から3段目の土地開発公社の出資金と真ん中よりやや上、地方公共団体金融機構出資金ということとございます。

続きまして、617ページに基金の表がついております。まず、財政調整基金でございますが、基金につきましては、いわゆる出納整理期間という概念がございませんので、3月末日で一旦取りまとめ、次ページに、618ページに参考債権という形で記載しております。財政調整基金であれば決算末現在として5,200万円上がっておりますが、617ページと618ページにあるものの合計が年度末の残高という形になります。財政調整基金につきましては617ページが52億2,310万6,000円、次のページが5,200万円と言いました。合わせて52億7,510万6,000円ということが年度末残高というふうになっております。

617ページ、財政課所管分としましては財政調整基金の下の市債管理基金23億600万円余り、その2つ下の公共施設整備基金76億円余りということ、それから下から6行目ぐらいですけども、土地開発基金、これが5億5,284万6,000円と次ページに債権としまして6万6,000円でございますので、合わせた額が年度末残高ということになります。

618ページの一番下段に不動産土地開発基金ということとございまして、土地開発基金としましては土地として年度末18万1,786.58平米

というような状況でございます。

財政課、長くなりましたが、以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

続きまして、原田防災課長、お願いします。

○防災課長（原田 泰三） それでは、決算書の341ページになります。歳出をまず説明したいと思います。

非常備消防事業費ということで、ちょうど1行目に消耗品費で764万8,703円とありますけれども、これにつきましては、昨年、消防団員への配備品として主なものといたしましてLEDヘッドライト、ゴーグル、漏水防止のゴムバンド等を購入して支給しているという状況でございます。

同じく341ページのちょうど真ん中辺あたりに補修工事費ということで406万4,800円というのがございます。これにつきましては、分団車庫の屋根であったりシャッター等の修繕、それから老朽化した火の見やぐらの撤去、それに伴うホースタワーの新設等に伴う工事費用として支出しております。

同じく341ページの下から13行目とちょっとわかりにくいんですけど、防火水槽整備事業費ということとございます。修繕料で335万5,560円というのが上がっておりますが、これにつきましては、老朽化して人が落下する危険があるような地上式のフェンスで囲まれた防火水槽のフェンスであったり、老朽化した防火水槽の躯体の漏水を防止するための工事であったりと緊急を要する防火水槽の修繕費用に充てております。

341ページの下から2行目ぐらいに繰越明許費ということで消火栓の負担金の関係があるんですけども、これにつきましては、日高と出石の市道だったり県道であったりの関連する工事の影響で遅延をしてたりとかいうようなことで翌年度に繰り越しているというものでございます。

続いて、345ページをお開きください。災害対策事業費というのが上から5行目ぐらいのところにあります、その9行目になります消耗品費で

ございますが、これにつきましては、30年度につきましては災害対策で現場に赴く都市整備部の職員であったりコウノトリ共生部の職員であったり、あと振興局の地域振興課の職員用に救命胴衣やヘルメットライトを支給配備しております。またあわせて避難所なんかに行く職員にもヘルメットライトを配備しております。

続きまして、347ページでございます。ちょうど上から3行目の設置工事費ということなのですが、これにつきましては、J-ALERT受信機の関係でございます。国の方針によりまして全国的に更新するものでございます。これによってさまざまな情報処理能力の向上が図られるというものでございます。

同じく347ページの5行目でございますが、防災行政無線整備事業費でございます。全体で3億723万3,320円となっておりますが、そのうちの投資委託料に設計監理ということで720万3,600円というのがございます。これにつきましては、デジタル化の整備工事に係る工事の監理委託業務、それからその委託料のうち平成30年度分に当たる558万3,600円、それから整備事業費全体の実設計の委託料162万円を合わせたものでございます。

また、その下に整備工事費として3億円上がっておりますが、これにつきましては、防災行政無線のデジタル化整備工事費全体で11億9,448万円のうちの平成30年度分の支払い分でございます。30年度分につきましては35%の進捗率というふうなことでございます。

それから、その下の地域防災充実事業費というのがございますが、印刷製本費に上げております47万9,300円につきましては、30年3月に兵庫県が津波の新想定を公表いたしまして、これに伴って7月に沿岸部のお宅に津波ハザードマップを配付するためにマップの印刷代として使ったものでございます。

また、その下の業務委託料54万円につきましては、このマップ等の関係で避難場所なんかが廃止に

なったり名称が変更になったり、そういったようなことに伴うデータの修正をするために業務委託をした費用でございます。

同じく347ページのちょうど真ん中あたりに合同防災訓練負担金というのがございますが、131万5,000円でございます。これにつきましては、昨年の9月2日に実施されました兵庫県但馬地域合同防災訓練の豊岡市分の負担金になります。この訓練の内容につきましては、メイン会場が香美町だったんですけども、そちらでは津波避難訓練や救出救護訓練、それから避難所の開設、運営訓練だったり、JRの香住駅では乗客の避難、誘導訓練があったりとかいうようなことで、そういったメイン会場のほか、サブ会場の一つとして豊岡市で沿岸部における津波避難訓練を実施いたしました。豊岡市では1,500名ぐらい避難訓練に参加いただいているところでございます。

歳出につきましては主なものとしては以上でございます。

続きまして、歳入の部でございますが、今度は49ページをお開きください。こちらの下から2項目めぐらいに災害対策補助金ということで、災害救助費の繰りかえ支弁金というのがございますが、これにつきましては、7月豪雨で避難所の開設をした関係で、それに伴う経費の一部がこの対象としてお金をいただいたというような内容でございます。これに24万9,527円の歳入がでございます。

続きまして、77ページに飛びます。ちょうど上から9行目あたりに災害見舞金ということで、先ほど議会事務局のほうからも議会関係の見舞金のお話があったんですけども、そのほかにも例えば日本共産党中央委員会さんだったりとか、市長会だったりとか、あとは兵庫県の消防協会だったりとかってということで、合わせて251万3,338円を見舞金として基金のほうに繰り入れているというふうな状況でございます。

防災課からは以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、続きまして土生田コミュニティ政策課長、お願いします。

○コミュニティ政策課長（土生田祐子） 私のほうからは、コミュニティ政策課と各地域振興局の地域振興課コミュニティ分を合わせて説明させていただきたいと思います。

149ページをごらんください。3段目です。人件費9,350万5,858円です。これにつきましては、地域マネジャー29人分、コミュニティ支援員4名分、事務補助員2名、合わせて35名分の人件費です。対前年比といたしましては、3,206万2,171円、12名の減ということですが、この分につきましては、コミュニティづくり交付金のほうに算入しております。

続きまして、10行目をごらんください。同じページの10行目です。地域コミュニティの活性化交付金577万8,000円のうち、創生事業交付金が200万円、活動促進事業といって手挙げの交付金なんですけれども、377万8,000円になります。151ページの10行目です。済みません。

続きまして、コミュニティづくり交付金です。これは一括交付金で1億3,732万4,426円で前年対比3,306万6,000円です。この件につきましては、先ほど説明いたしましたとおり、コミュニティ支援員が市嘱託職員から雇用というかコミュニティづくり交付金算入されまして、その分の増となります。これはコミュニティ組織の運営費として財政支援をしているところです。

それから、少し下に下がりまして、コミュニティセンター管理費になります。9,518万2,778円、対前年比は2,430万178円の減になります。29センターの維持管理費で、減額理由は改修工事等の減となります。

それから、下から6行目になります。コミュニティセンター個別施設計画策定業務費334万8,000円につきましては、新規事業でして、長寿化に伴う維持管理、修繕費等の将来的に必要な負担金を把握するという意味で計画を策定しております。

続きまして、153ページになります。上から6

行目のところでは、補修工事、1,914万7,968円ということで、港コミュニティセンター1,267万8,768円、清滝コミュニティセンターにつきましては646万9,200円となっております。

それから、歳入のほうに移らせていただきます。

27ページ、中段の少し下になりますコミュニティセンターの使用料です。489万1,010円ということになっておりますけど、対前年比といたしましては、67万6,570円の減になりまして、たび重なる台風であるとかでキャンセルが出たということはあるんですけれども、減の原因の特定はできておりません。

61ページをごらんください。3項目めです。7億3,870万6,000円のうち、コミュニティ分につきましては、2,000万円がコミュニティ推進事業費に充てられております。

それから、ページ変わりまして、73ページ中段、15行目になります。市有物件配分金及び共済金ということで、178万2,027円のうち91万8,000円は西気地区に落雷がありまして、その部分を共済会より収入しております。

続きまして、ページ飛びます。83ページになります。3項目めです。過疎債対策事業債の1億4,650万円のうち、コミュニティづくり交付金で3,476万円、それからコミュニティ活性化交付金で87万4,000円、それぞれ過疎債を充てられております。

そして、行政財産に関する調書、608ページとなります。雑種地の中で6段目になります。奈佐地区コミュニティセンターの330平方メートルなんですけれども、コミュニティセンターの道路渡りまして、郵便局側に広場がありまして、これを駐車場として利用されたい旨の意向がありまして、確認したところ、台帳に未記載であることが判明いたしましたので、今回ここに計上しております。

コミュニティ政策課からは以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、説明は終わりました。（「委員長、この分は」「まだあります」と呼ぶ者あり）コミュニティの分だけは全部ということやったね。

○コミュニティ政策課長（土生田祐子） はい、コミュニティ分だけです。

○副分科会長（浅田 徹） その分だけで、ああ、はい、はい、ごめんごめん。

それでは、引き続き振興局のそれぞれ担当課長からお願いしたいと思います。

谷垣城崎地域振興課長、お願いします。

○城崎振興局地域振興課長（谷垣 一哉） それでは、恐れ入りますけれども、決算書の128ページ、129ページをごらんいただきたいと思います。128ページ、129ページ、下のほうでございますけれども、城崎振興局費に係る決算についてご説明いたします。

内容につきましては、129ページの備考欄、下から12行目から次のページ、131ページ中段付近の自動車管理費までということでございます。

まず、129ページの庁舎管理費でございますけれども、総額で1,176万7,954円の執行としております。この内容につきましては、振興局内の事務並びに庁舎の維持管理に関する経費ということで131ページまで予算科目と金額を計上させていただきます。

なお、平成30年度におきましては、庁舎の大きな修理等も行っておりませんので、例年並みの管理などに係る必要な経費というところでございます。

次に、131ページをお開きいただきたいと思いますが、上から16行目のところに自動車管理費がございます。総額で88万9,285円の執行額となっておりますけれども、リース車4台を含む城崎振興局管理の公用車11台分の自動車の管理費でございます。これにつきましても変更はございませんので、例年並みの管理に係る必要な経費というふうなことで支出をしているところでございます。

次に、歳入でございますけれども、歳入の予算科目並びに金額等につきましては、例年と大きな変動

は特にございません。

城崎振興局からは以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

続きまして、福井竹野地域振興課長、お願いします。

○竹野振興局地域振興課長（福井 正幸） 131ページをお願いいたします。14目竹野振興局費庁舎管理費につきましては、開閉式パーティション設置工事のほか、竹野振興局通常経費で光熱水費、電気設備、エレベーター等の保守点検、宿日直業務の委託料が主なものでございます。

次のページの自動車管理費につきましては、振興局が管理しております公用車7台の管理費でございます。

飛びまして377ページをお願いいたします。377ページ下段のほうですけれども、仲田光成記念全国かな書展開催事業費の主な内容ですが、人夫賃は作品整備のために雇い入れた臨時職員の3か月分の賃金で、報償金は応募作品の審査のための審査員報償であり、費用弁償は審査員の旅費です。印刷製本費は募集チラシ、ポスターなどの印刷であって、業務委託料は、主な内容につきましては、会場設営及び額装委託料の費用です。

続いて、歳入について説明いたします。

75ページをお願いします。雑入なんですけれども、上から12行目です。美術展等出展料の仲田光成記念全国かな書展への出品料及び表具料の負担金です。

私からは以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

続きまして、和藤日高地域振興課長、お願いします。

○日高振興局地域振興課長（和藤 達也） 日高振興局費についてご説明申し上げます。

まず、135ページの庁舎管理費でございます。ちょっと下段のほうの備考欄でございますけれども、基本的には経常的な管理経費でございますが、13

7ページの備考欄の中盤あたりの整備工事費につきましては、日高庁舎長寿命化多機能化事業の初年度として日高庁舎の2階の改修、老朽化している高圧受電設備の更新等を行ったものでございます。これによりまして、この春から豊岡市商工会が日高庁舎の2階を事務所として執務をされております。豊岡市商工会の日高庁舎の2階の移転につきましては、商工会からの要望による改修も行っておりまして、その分につきましては決算資料の69ページ、済みません、そっち見ていただきたいんですが、上から11行目のとおり、商工会から工事負担金として69万7,680円を雑入、工事費負担金として収入しております。

それから、済みません、もう一回137ページに戻っていただきたいんですが、中盤あたりの自動車管理費でございます。リース代5台を含む日高振興局管理公用車11台分の管理費でございます。例年のとおりの管理で特別なことはございません。

日高からは以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

続きまして、村上出石地域振興課参事、お願いします。

○出石振興局地域振興課参事（村上 忠夫） まず、103ページをごらんください。決算書103ページです。上から5行目の設置工事費についてです。1,589万7,320円のうち、93万9,600円が出石庁舎東側駐車場の危険コンクリートブロックの塀の改修工事分でございます。

続きまして、137ページをごらんください。137ページの一番下の枠になります庁舎管理費でございます。対前年339万7,084円の減ということになりますが、主な内容につきましては、下から2行目、修繕料、こちらが上水用の給水ポンプユニットの取りかえ、それから機械室の空調機器の取りかえ等で258万1,977円を支出しております。

それから、次の139ページをごらんください。中ほどになります。補修工事費、これにつきまして

は、防火シャッターの9カ所の改修、それから排煙窓の7カ所の修理など庁舎設備修繕に729万8,640円を支出しております。

次です。飛んで385ページをごらんください。中ほどやや下の出石永楽館歌舞伎開催事業費についてでございます。昨年11回目の開催となりましたが、例年より少し早目に開催しまして10月18日から24日の7日間、全13回公演で実施をいたしております。チケット4,500枚全て完売ということでした。

支出総額は対前年でいきますと1,000万円余りの減で、総額で7,224万2,970円。主なものにつきましては、4行下の印刷製本費、こちらがポスター、あるいは番付、チラシ等の印刷ということで294万4,404円、それから3行下になります手数料です。こちらにつきましてはチケット販売、新聞折り込み等々の手数料ということで443万6,903円を支出。それからさらに5行下です。歌舞伎公演の事業委託料で、こちらが松竹に対して5,022万円の支出となっております。次に、会場借り上げ料、こちらにつきましては、期間中の永楽館、それから近隣の楽屋としての施設の借り上げということで104万146円の支出としております。それからその次の自動車借り上げ料でございます。こちらは役者、スタッフ等関係者の送迎用のバスの借り上げということで245万1,130円、さらにその次の建物借り上げ料につきましては、同じく関係者の宿泊料ということで664万9,570円を支出しております。

次に、387ページをごらんください。上から4行目になります。伝統的建造物群保存地区保存事業費でございます。こちらにつきましては、対前年でいきますと4,320万円余りの減となっておりますが、こちらにつきましては特に前年、29年度の辰鼓楼の大改修であったりとか、それから修理・修景事業件数の減によりまして大きく減となっております。1,841万3,170円ということになります。主な内容につきましては、一番下になります国県補助金、こちらが1,673万6,000円と

ということで、これは修理・修景事業3件に対する補助金となっております。

続きまして、歳入につきましてご説明を申し上げます。

39ページをごらんください。39ページでございます。中ほどの少し下でございます社会教育費補助金の4つ目になりますけれども、重要伝統的建造物群保存地区保存修理費の補助金840万4,000円、これにつきましては、先ほど申し上げました修理・修景事業3件に係ります国庫補助金ということで、補助率2分の1でございます。

次に、49ページをごらんください。49ページです。これも中ほどになります。同じく社会教育費補助金の3つ目で、同じく重伝建の補助金なんですけれども、こちらが県費補助金に係るもので420万2,000円ということで補助率4分の1となっております。

次に、61ページをごらんください。61ページです。中ほど少し上になりますけれども、地域振興基金の繰入金7億3,870万6,000円のうち、200万円が永楽館歌舞伎開催事業費分でございます。

次に、65ページをごらんください。65ページの一番下の枠になります。雑入の6行目ですね、パンフレット広告料ということで61万2,000円のうち60万円が歌舞伎公演に係ります番付の協賛金です。

次に、67ページをごらんください。67ページの上から5行目です、書籍等113万6,068円のうち105万1,000円が歌舞伎番付の販売収入となっております。

次に、73ページをごらんください。73ページの下から13行目になります、歌舞伎開催事業の協賛金56万円、これにつきましては、地元観光協会等からの協賛金、さらにそれに加えまして出石まちづくり公社からの子供割引減収分に対する補填ということでいただいております。その3行下になります。永楽館自主事業助成金425万3,000円につきましては、日本芸術文化振興会から受けたも

のでございます。また、下から2行目の部分です、兵庫県市町村振興協会市町交付金、いわゆる宝くじ交付金でございます。5,092万8,166円のうち、1,073万2,970円が歌舞伎開催事業分でございます。

次に、めくっていただきまして75ページをごらんください。上から7行目です、永楽館の入場料5,416万7,600円のうち歌舞伎の公演チケット販売分につきましては、5,304万6,000円となっております。

最後です。ちょっと飛びますけど、602ページをごらんください。財産に関する調書でございます。602ページの一番上です。本庁舎の土地119平方メートルが増加しておりますが、これにつきましては、めくっていただきまして604、605ページをごらんください。行政財産土地に関する調書の一番上に記載しております出石庁舎敷地に係るものでございまして、昨年10月、出石庁舎南駐車場内に登記上、個人名義の用地が存在しているということが判明しました。相続人に対しまして状況説明、土地の提供について依頼を行った結果、寄附による土地提供にご理解とご協力をいただきましたことから、市への所有権移転登記を完了しまして、今回、台帳に記載をさせていただくものです。以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

では、最後です。大石但東地域振興課長、お願いします。

○但東振興局地域振興課長（大石 英明） 141ページをごらんください。中ほどに庁舎管理費但東地域振興課としまして1,416万4,765円を支出しております。29年度に比べまして1,734万円余りの減額となっておりますが、29年度は庁舎の整備工事を行ったわけですが、30年度は大きな整備工事等なかったため、大きな減額となりました。

その下段、下から4行目になります。自動車管理費184万7,085円は、庁舎の公用車6台の管理経費となっております。

次に、ちょっと飛びますが、401ページをごらんください。上から6段目になります。但東市民センター管理費196万9,153円は、市民センターの管理に係るものでございます。市民センターにおきましても、29年度は補修工事を行ったわけですが、30年度は大きな工事がなかったため、29年度、前年度に比べまして340万円余りの減額となっております。

歳入につきましては、例年と大きな変動はありませんので、省略させていただきます。

以上で説明を終わります。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、説明は終わりました。

分科会を暫時休憩したいと思います。再開は11時でお願いします。

午前10時47分 分科会休憩

午前10時57分 分科会再開

○副分科会長（浅田 徹） それでは、おそろいですので、休憩前に引き続き分科会を再開したいと思います。

今の当局の説明につきまして、質疑はございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 2点ほどお尋ねしたいと思うんですが、まず1つは議会事務局、85ページの…

○副分科会長（浅田 徹） えっ、何ページ。

○委員（村岡 峰男） 85ページ。

○副分科会長（浅田 徹） 85ページ。

○委員（村岡 峰男） 簡単なことなんですけど、議員の共済というのか、年金制度がなくなってかれこれ10年になると思うんですけどね。今歳出の中で議員共済の議員共済組合負担金3,990万円何がしがあるんですけども、金額の根拠といつまで続くのかなど。議員のほうの共済はなくなっておるのね。

○副分科会長（浅田 徹） 宮本次長、お願いします

す。

○事務局次長（宮本ゆかり） 議員共済組合の負担金につきましては、まず1つが事務費の負担金としてお1人当たり1万3,000円の24人分、それからそのほかの負担金といたしまして標準報酬総額に100分の38.2の率を掛けて、それを24人分ということで計算式がなされております。それに伴いましてお支払いさせている金額となっております。

この負担金がいままでということにつきましては、また後ほどお調べしてご報告させていただきたいと思っております。

○副分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 議員年金制度が廃止されて10年余りね、この制度が継続しとる間はわかるんです。もう制度があらへんのになぜ負担金が続くのか。現にもらっとる大先輩の皆さんがいうのがあるからというのはわかるんですけども、それだけの根拠ですか、これあるのは。

○副分科会長（浅田 徹） 宮本次長。

○事務局次長（宮本ゆかり） まだ引き続き年金の支給がございますので、事務的な経費だというふうに考えております。

○副分科会長（浅田 徹） よろしいか。

○委員（村岡 峰男） わかりましたいいです。

もう1点いいですか。

○副分科会長（浅田 徹） はい、村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 土地売却の関係で、どこかわからへんだけんな、東保育園を建物つきで売却をして一千何百万円だったか、ページどこだけえな、610とはちゃうな……（「売却やから、歳入のほう」「53ページです」と呼ぶ者あり）53……（「土地売却収入のところね」と呼ぶ者あり）あっ、ここね、はい、東保育園の園舎、土地を建物つきで1,450万円だって説明でしたね。これも建物、土地は業者に売却されたと。入札か何かですか。

○副分科会長（浅田 徹） 畑中財政課長。

○財政課長（畑中 聖史） いわゆる土地のキャンペーンということで、秋から冬にかけて行うキャンペ

ーンの際には競争入札で売却をします。その期間が一旦過ぎましたら、翌年またキャンペーンに係るまでの間はいわゆる随契で売却をします。この旧東保育園の土地、建物つきにつきましては、随契期間でございまして、その際に民間の方に1,450万円で売却したものでございます。以上です。

○副分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 保育園で建物は保育園としてはもう使える代物じゃないんですよ。何が言いたいかわからないね、東保育園はそれに対して業者に1,400万円と。日高の商工会は、建物は価値がねえからといって解体費用引いて560万だったかな、場所的にいっても面積的にいっても日高に比べたら高いですね、これ、ええ値で売っとんなるなと思って。

○副分科会長（浅田 徹） 畑中課長。

○財政課長（畑中 聖史） この旧東保育園の土地につきましても、建物分は除却費用を減額した上で1,450万円という金額が出ております。ちょっと手元に今幾らだったかを持っておりませんが、減額しておるものでございます。

○委員（村岡 峰男） ええよう売りなつたな。

○副分科会長（浅田 徹） 畑中課長。

○財政課長（畑中 聖史） 基本的に土地の売却につきましては、鑑定を入れた上で売っておりますので、そこから入札の場合は高い値がつく可能性もありますけど、一応最低価格は鑑定価格ということでご理解いただきたいと思っております。以上です。

○副分科会長（浅田 徹） よろしいですか。

○委員（村岡 峰男） はい、いいです。

○副分科会長（浅田 徹） 宮本次長。

○事務局次長（宮本ゆかり） 先ほど村岡議員のほうからご質問がありました議員の共済会の件です。制度廃止に伴う経過措置としての給付に関する費用というものにつきましては、地方議会議員共済会が保有する残余の積立金を除き地方公共団体が負担することというふうになっておりますので、給付に要する費用がなくなるまでは割合的に地方公共団体が負担するというふうになってこようかと思っ

ております。以上です。

○委員（村岡 峰男） そうか、まだまだ相当続くいうことですね。はい、わかりました。

○副分科会長（浅田 徹） ほかにございませんか。足田委員。

○委員（足田 仁司） 53ページの下から3つ目かな、備考欄の下から3段目、土地売却収入で、説明の中に旧農工団地という表現だったんですけど、出石の袴挟ということで2万9,000平米、結構広い土地なんですけども、もともと何に使われてて、売却先、差しさわりなければ教えてください。

○副分科会長（浅田 徹） 畑中課長。

○財政課長（畑中 聖史） もともと土地開発基金で旧出石町の時代に取得した土地でございまして、名前のとおり、ちょっと詳細は存じ上げませんが、農工団地という名目で買われた土地でございまして。売り先はアールエスエルという建設業界の共同で出資されているような会社だったと思うんですけども、そこがいわゆる建設残土を埋め立てるために豊岡市内で土地を求められて探しておられまして、規模に合致するというような形で売却させていただいたものでございます。以上です。

○副分科会長（浅田 徹） 足田委員。

○委員（足田 仁司） ひょっとしたら昔、畜産基地とかいう名前だったのかなと思って。（「自分が一番よう知っとる」と呼ぶ者あり）名前が違ったから別のスペースがあったのかなと思っております。

続いてよろしいですか。

○副分科会長（浅田 徹） はい、どうぞ。

○委員（足田 仁司） 75ページの一番下、出石観光センターの返納金2,000万円余りの事業費の消費税相当分。ちらっと聞いたことがあるんですけど、補助事業を実施する際に消費税がかかるかからないが何か漏れていたとかいう話を聞いたことがあるんですけど、補助事業を実施した団体が最終的に責任をとってる形になってます。その間に市としてのいろいろ指導ですとか、補助事業ですからいろんな制限もあると思っておりますけど、そういった事業の進め方、何でこの消費税相当分がおっちゃったのか、

それも事業が完了して、もうみな竣工式も全部終わってからこういった事態になってるというふうにちらっと伺ったんですけど、そのあたりの経過とどこにそんな原因があったのかをお尋ねします。

○副分科会長(浅田 徹) 政策調整課の井上課長、お願いします。

○政策調整課長(井上 靖彦) これは原因としましては、補助金の交付決定後に国の要綱の改正がされて、制度改正による影響の認識が職員のほうになかったというのがございます。それと事業者への説明が十分ではなかったということがありまして、こちらのほうも十分に対応ができてなかったということでございます。これを受けまして、再度、職員には、補助金の取り扱いにつきまして周知を図ったというところがございます。以上です。

○副分科会長(浅田 徹) 足田委員。

○委員(足田 仁司) 済みません、忘れないうちに、347ページ、地域防災充実事業費で津波ハザードマップを作成する事業、ハザードマップを作成された後に、沿岸部のお宅に配付したという説明があったと思いますけど、豊岡市が抱える防災上マークする沿岸部の住宅戸数は全体で何戸あって、対象のお宅には全戸配付したということでしょうか。

○副分科会長(浅田 徹) 原田課長。

○防災課長(原田 泰三) 今のご質問ですが、戸数が正確ではないんですが、配付対象となった世帯というのは約4,200枚、4,200軒ということになりますけど、そこは恐らく各振興局などにストックする分も入っているので、印刷部数が4,200なので、それに近い数字になるのではないかとというようなことが1つ想定されますのと、配付対象区なんですけども、竹野地区につきましては濱須井、切濱、西町、それから竹野浜自治会の7区、それから宇日、田久日というような区になりますし、あと港地区でいいますと瀬戸、津居山、小島、気比、田結、それから城崎地区でいいますと桃島、湯島、今津、楽々浦、戸島、来日、結、それから簸磯、上山、二見、このあたりプラス田鶴野のほうが一部近くまで来る、玄武洞のあたりまでってなことが少し想定

されるので、赤石、下鶴井まで配付しておりますので、今言いましたような地区がほとんどが港地区と城崎、それから竹野の沿岸部というようなことになると思います。

○副分科会長(浅田 徹) 足田委員。

○委員(足田 仁司) 続けていいですか。

○副分科会長(浅田 徹) はい、いいです。今の件は。

○委員(足田 仁司) 今ので了解しました。

もう1点、別の別件ですけど、出石の歌舞伎のことでちょっとお尋ねしますが、毎年盛況だという、事業はうまくいってるようですが、評判というかわさでは事業はうまくいってるけど採算面では赤字とちゃうんかという、そんなうわさも流れてまして、今お聞きすると財源確保に相当苦心されて、ありとあらゆる財源を引っ張って苦勞されてるのが伝わってくるんですけども、実態としては事業の収入支出のもうかっているのか損しているのか、そのあたりを教えてください。

○副分科会長(浅田 徹) 村上地域振興課参事、お願いします。

○出石振興局地域振興課参事(村上 忠夫) 先ほど財源の内訳、歳入のほうでご報告させていただいたんですけども、要は宝くじ交付金であるとか、そういったものを除いた収支でいきますと、完全に赤字です。これはもうずっと以前から市長も一般質問の答弁でもお答えをさせていただいてるんですけども、そもそもは客席数が350足らずというようなことですので、歌舞伎公演を採算ベースに乗せることは基本的に難しいというようなことを言われております。じゃあ、その年によって赤字がどれぐらいなんっていうのは実は、芸術文化振興基金の助成金が年によりましてたくさんいただけたりとか全くないっていうような年もありますんで、どれぐらいの赤字が出てるんだっていうのは年によってかなり差があるということでお答えできませんけども、参考までに例えば直近の5カ年の平均でいきますと、兵庫県の市町村振興協会の交付金であるとか地域振興基金の繰入金なども含めて考えましても

一般財源の持ち出しが平均して630万円程度、30年度につきましては全額いろんな交付金を充てていただいて一般財源持ち出しがゼロということにはなっていますが、それを含めても過去5年間で見てみますとそれぐらいな、1公演当たり純に計算しますと45万円程度の赤字というような計算になります。

○副分科会長（浅田 徹） よろしいか。

○委員（足田 仁司） はい。

○副分科会長（浅田 徹） 芦田委員。

○委員（芦田 竹彦） デジタル無線のことについてちょっと1点。先ほど平成30年度、35%ぐらいだということで聞きました。計画どおりなのかということと、それから完了が今の年度でいくと何年度末完了予定でしたっけ、それだけちょっとお聞かせください。

○副分科会長（浅田 徹） 原田課長。

○防災課長（原田 泰三） 計画では27.5%ぐらいということで30年度末までのを見込んでたんですけども、それに対して35%という進捗になっています。主なものっていうのは戸別受信機の製造であったりとか屋外拡声子局とかの交換中であったりとか、いろいろとそういったものになります。

それから、整備の計画年度なんですけども、一応、令和2年度末というのが最終ということになります。

○副分科会長（浅田 徹） 芦田委員。

○委員（芦田 竹彦） ありがとうございます。令和2年度ということで聞きました。計画よりかは、予想してたよりかは平成30年度、35%、27から35%、進捗は早目に進んでってということで、順調に進捗しているということで理解したらいいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）今の完了年度が令和2年度の年度内だけでも、若干、令和2年度内であっても進捗はちょっと早くなるという理解でええんでしょうか。エンドは変わらない。

○副分科会長（浅田 徹） 原田課長。

○防災課長（原田 泰三） 今のアナログの設備なんかの撤去とかもありますので、そういった期間を見

込んでるといようなことになります。

○委員（芦田 竹彦） はい、わかりました。

○副分科会長（浅田 徹） 質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副分科会長（浅田 徹） それでは、質疑を打ち切ります。

以上をもちまして分科会審査の午前中の部を終了したいと思います。ここで委員の皆さん、当局の皆さんから何かございましたら、ご発言お願いしたいと思います。

ないようですので、明日18日水曜日の委員会審査は午前9時30分から当委員会室で行いますので、よろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆さんには、これより分科会を暫時休憩いたします。再開は午後1時から。

午前11時20分 分科会休憩

午後0時57分 分科会再開

○副分科会長（浅田 徹） 皆さん、こんにちは。気を引き締めていきましょう。

それでは、定刻に少し時間ございますけど、皆さんおそろいですので、午前中に引き続いて分科会を再開したいと思います。

午前中に引き続き、井垣委員長が欠席しておりますので、豊岡市議会委員会条例第10条第1項の規定によりまして、副委員長でございます私がかかわって委員長の職務を行いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、座って進めたいと思います。

委員の皆さん並びに当局職員の皆さんにおかれましては、質疑、答弁に当たりましては、要点を押さえ、簡潔明瞭に行っていただき、スムーズな議事進行についてのご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

なお、委員会及び分科会での発言につきましては、副委員長、副分科会長の指名の後、マイクを使用して、課名と名字を名乗ってから、説明に当たっては資料のページの番号をお知らせいただくようによ

ろしく願いをしておきます。

それでは、協議事項に入らせていただきます。

休憩前に引き続き、第87号議案、平成30年度豊岡市一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題としたいと思います。

87号議案中、当分科会の審査を分担されましたのは、所管事項に係る歳入歳出決算書、実質収支に係る調書、財産に関する調書についてであります。十分な質疑時間を確保するために、当局には、新規事業や前年度から大きな変更のあった事業及び主要事業を主として説明いただくように依頼しているところでございます。

当局の説明につきましては、まずは全体の人件費に係る部分について、人事課長からご説明をいただき、その後、組織順で課ごとに所管に係る歳入、歳出、実質収支調書、財産調書等をつけてご説明をいただきたいと思います。

質疑につきましては、説明が終わった後に一括して行いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

ここで、財政課長のほうから発言求められていますので、よろしくお願ひします。

○**財政課長(畑中 聖史)** 午前中の分科会のほうで、土地の売払収入につきまして、旧東保育園の土地を1,450万円で売却したわけなんですけれども、その際に、キャンペーン中は入札で売却し、それ以外は随意契約で売却するという事を申し上げました。東保育園は随意契約で売却したと申し上げたのですが、実はキャンペーンとして売却したものでございました。訂正して、おわびいたします。以上でございます。

○**副分科会長(浅田 徹)** はい、了解しました。

それでは、順次説明をお願いしたいと思います。

まず、山本人事課長、人件費についてでございますけれども、よろしくお願ひいたします。

○**人事課長(山本 尚敏)** 人件費につきましては、本日、右肩に87番と番号を振りました資料をお配りしております。平成30年度決算人件費の状況(一般会計)と表題に上げて資料でございます。平成29年度の決算の額と比較してまとめており

ますので、これに基づきまして、特徴的なところを説明させていただきたいと思ひます。

まず、給料です。29年度と比較しまして4,839万9,000円の増額ということになっております。給料につきましては、職員の昇給とか、人事院勧告ございまして、それによって国家公務員も改定されましたので、それに準じて改定をしております。平均改定率0.2%のベースアップということでございます。それにより増額とか、それから退職者と、それから新規の採用者との給与差による減額などもございますので、そうしたものを差し引きして反映した状況でございます。

その次に、その他の手当で、大きいのは期末勤勉手当です。2,627万9,000円の増額ということになっております。これも人事院勧告に基づく改定がございまして、勤勉手当の支給率、年間0.05月分増額ということになってございます。それと、給料月額、ベースアップしたこともありまして、こういった増額ということになっております。

それから、時間外勤務手当につきましては、29年度と比較してマイナスの194万9,000円ということになっておりますが、ここのところ、ほぼ横ばい状態といった状況でございます。

それから、共済組合負担金です。990万9,000円の増額ということの結果になっております。これは、給料の改定を反映したりとか、そうした部分もございまして、増額という状況でございます。

それから、その下の退職手当組合の負担金でございます。4,024万6,000円の減額となっております。これにつきましては、29年度、負担率が1000分の170だったところが1000分の155ということで、引き下げになりましたので、それを反映した状況でございます。

それから、その他というところで、29年度と比較して4,973万2,000円の減額ということになっております。このその他の中身でございますけれども、非常勤嘱託職員の報酬とか臨時職員の期末手当、それとか社会保険料等、こういったものの中身でございます。嘱託職員、ちょっと人数も減った

りとか、1年間の中で人の出入りもございますので、そういったものを反映した減額の状況でございます。

それから、議員委員等報酬です。これにつきましては、議員報酬とその期末手当の中身でございますけれども、29年度は欠員がございましたので、30年度はその欠員が解消された状況になりましたので、その分、29年度と比較すれば増額ということですし、期末手当の支給率を年間0.05月分増加しましたので、その分を反映したものでございます。

それから、その下の特別職の給与438万8,000円の増額となっております。29年度につきましては、副市長、それから教育長の交代がございましたので、その分、期末手当の支給率、期間率が減った分で支給したりということもございまして、そういった分を反映して少なくなっておりますので、30年度については29年度と比較すると増額といった状況でございます。

全体合わせますと、29年度と比較しまして、9,904万9,000円の減額という状況でございます。

人件費については以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、安藤総務課長から順にお願いします。

○総務課長（安藤 洋一） 総務課の重立ったものを説明いたします。

まず、歳出から説明します。87ページをごらんください。決算書の87ページです。下から3行目の一般管理費でございます。一般管理費の全体額のうち、総務課分としましては、2,111万7,326円が総務課分として決算しております。昨年度を比較しましたら、約470万円減額となっております。

その主な要因としましては、89ページをごらんいただきたいんですが、89ページのちょうど真ん中あたりの地区集会施設整備費に係る補助金が前年度と比較して約470万円減額となっております。それが要因として考えられます。その470

万円減額となった理由としましては、地区集会施設の改修であったりとか改築、新築等々に係る補助金の申請が少なかったことが原因であります。

同じく91ページをごらんください。上から5行目です。区長会費でございます。区長会費のうち、業務委託料についてでございますが、この業務委託料については359の行政区に対する行政連絡調整事務委託料でございます。1行政区当たり5万6,000円という定額と、それから広報配布件数に対して1件当たり1,000円で算出した金額でもって、359の行政区に対して支払いをしております。

また、その3行下でございますが、自治会運営補助金として、各区長協議会に対して432万円交付をしております。

続きまして、97ページをごらんください。2枠目の庁舎管理費でございます。その庁舎管理費の整備工事費、下から3行目です、97ページの下から3行目にあります整備工事費の中庭でございます。これは、昨年度、害虫がつくミヤコザサを撤去するために要した費用でございます。

1ページめくっていただいて、98ページから99ページにかけて、設置工事費でございます。これについては、この本庁舎周りに防犯カメラを7基設置しました。それに要した費用でございます。

その下の自動車管理費でございますが、事業用備品とあります。この事業用備品でございますが、公用車予約管理用のパソコンを1台購入し、また、各部にアルコール検知器を45基購入して、配備をしました。

それから、101ページから102ページをごらんいただきたいんですが、財産管理費でございます。財産管理費が下のほうにございます。101ページの下の方にあります財産管理費です。全体額のうち、363万5,508円が総務課分でございます。

103ページをごらんください。業務委託料で、物品移転業務と不要品廃棄業務でございますが、旧職業訓練校の解体前の準備として、物品の移転と、それから不要品の廃棄を行いました。それに要した費用でございます。

175ページをごらんください。2枠目でございます。2枠目の人件費でございます。この2枠目の人件費でございますが、その下に住宅土地統計調査費と記載がありますが、住宅土地統計調査を実施するに当たり、指導員13名と、それから調査員87名の方に支払った報酬でございます。

203ページをごらんください。一番上でございます。臨時福祉給付金等支給事業費でございますが、この決算なんです、国県負担金等精算返戻金として支払いを行いました。当初受け入れた交付金と精算額との間に差額が生じたために返納したものでございます。原因は、当初対象としてカウントしておりました人数よりもかなり人数が減ったと。それは死亡であったりとか、この給付金というものが非課税世帯を対象にしておりますが、課税世帯になったものであるとかが原因として、対象人数が減ったことによる返納金が生じたものでございます。

それから、続きまして、347ページをごらんください。下から13行目に当たります災害被災地応援活動事業費でございます。全体額のうち、29万5,400円が総務課分として決算しております。昨年発生しました7月豪雨で被災されました岡山県倉敷市にボランティアバスを2回運行しました。それに係る自動車借上料、それから燃料費と、それから市の職員として2名、1回、ボランティアバスに同行して、参加をしました。それから、2回目の分については、職員は同行しておりませんので、燃料費のみ執行した結果となっております。

歳出は以上でございます。

それから、51ページをごらんください。歳入の説明に入らせていただきます。51ページです。上から3枠目の国勢調査事務委託金、それから少しその枠の中の下のほうにあります統計調査員確保対策事業費委託金、それから下から2行目の住宅土地統計調査事務委託金でございますが、これは歳出のほうで執行した全額に対して、県のほうから委託金として受領したものでございます。

総務課の分については、説明は以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます

た。

それでは、上田総務部次長、ワークイノベーションの推進室の関係ですね、よろしく申し上げます。

○総務部次長（上田 篤） 109ページをごらんください。ワークイノベーション推進室からは庁内の5課から引き継いだ事業についてご説明します。109ページの一番上です。地方創生推進費1,276万2,689円のうち、ワークイノベーション関係とキャリアデザイン関係が合計961万3,624円でございます。

主な費目についてご説明いたします。まず、普通旅費でございます。222万230円のうち、165万6,490円がワークイノベーションのキャリアデザインでございまして、この主な内容といたしましては、2つの戦略プラン策定に向けて、さらに今、事業所の表彰制度というのを昨年度からずっと検討しておるんですけど、そのスキームをつくるための参考に先進事例、先行事例を視察いたしております。それと、あわせて、厚生労働省との協議に係る旅費として上げております。

続きまして、業務委託料でございます。764万6,842円、このうちワークイノベーションのほうは439万642円で、キャリアデザインのほうは325万6,200円ということで、ワークイノベーションのほうは、ことし1月に策定をいたしました戦略、この策定に向けて（株）Will Labに業務委託をいたしております。まず、1つ目が591万3,710円なんですけど、この内容といたしましては、市内事業所のヒアリングですとか女性従業員からのヒアリング、それと先進自治体、企業のヒアリング、市内事業所との戦略すり合わせ、それと戦略の冊子、パンフレットの作成に係る費用として591万3,710円を委託料として、まず1本目、上げております。

2本目です。キャリアデザインアクションプランの策定のアドバイザリー業務として369万9,910円、これにつきましても（株）Will Labに委託をいたしております、この内容につきましましては、プランの策定に向けて庁内検討委員会を2

0代から40代の10人の市の職員によって構成して、ずっと検討してきたんですが、その運営支援ですとか、こちらら先進事例等の視察の調整、それと職員意識調査を一般事務職対象に、500名弱ですとか、を対象に実施いたしております、その実施と集計、分析に係るもの、それと女性管理職の座談会ですとか女性の管理職のセミナー、それとプランの冊子、パンフレット作成に係るものが主な内容でございます。

3つ目が、ワークイノベーションワークショップ支援業務ということで45万9,000円を上げております。これは、ワークイノベーションの戦略策定後に市内事業所の人事担当者向け、それと市内事業所の経営者向けに2本のセミナーを開催いたしております、その経費を、こちらにつきましても(株)Will Labに対して委託いたしております。

続きまして、111ページをごらんください。一番下の欄でございます男女共同参画社会推進事業費、これは生涯学習課で担当しておったものですが、これは80万3,389円ということで、ほぼ例年どおりでございます。業務委託料というのは、女性の社会参加促進のための一時保育をシルバー人材センターに委託しております、これは70事業について委託して、これを利用なさった子供さんが319人ということで、64万5,166円でございます。

続きまして、297ページをごらんください。297ページ中ほどです。労働力確保支援事業費です。435万7,606円でございます。これにつきましては、例えば出産とか子育てを機会に一旦離職された子育て中の女性で、現在、働いておられない方を対象に、プチ勤務という少ない日数、短時間の勤務というものを人材が不足している事業所とマッチングするという、そういう事業を昨年度展開いたしまして、こちらについては、企業向けの1回のセミナー、それと子育て女性向けの3回のセミナーとマッチングの場というのを10月22日にいたしまして、14社が参加されて、31人の子育て中女

性とのマッチングを行って、ことしの3月末現在で22名の子育て中の女性が市内事業所に勤務されたという状況でございます。潜在労働力掘り起こしマッチング業務として347万7,600円、これにつきましても(株)Will Labのほうに委託いたしております。以上でございます。

○副分科会長(浅田 徹) じゃあ、続きまして、山本人事課長、お願いします。

○人事課長(山本 尚敏) まず最初に、先ほどご説明いたしました人件費の関係で、最後に申し上げました29年度との合計の比較で、5,904万9,000円の減額と言うところを9,904万9,000円の減額と申し上げたようです。訂正いたします。(「了解です」と呼ぶ者あり)

○副分科会長(浅田 徹) はい、わかりました。

○人事課長(山本 尚敏) 済みませんでした。

そしたら、まず、歳出でございます。91ページをお開きください。上から13行目ですか、人事給与費でございます。人事給与費につきましては、職員の勤務とか労務管理、そういった業務に係るものでございます。29年度と比較しますと、若干減額となっております。この中で例年と比べてふえてますが、その中の業務委託料のところの就業管理システムの構築業務、その下の人事給与システムの改修業務、この部分、30年度に新たに行った部分でございます。この部分はふえてございますけれども、例えば雪が余り降らなかったことで、例年支出してました職員駐車場の除雪が必要なかったというようなこともございまして、全体としては若干、29年度よりも減額と、18万円ほど減額というような状況でございました。

同じく91ページの職員研修事業費でございます。職員研修事業費につきましては、職員の意識啓発や意欲の増進、能力向上などに向けまして各種の研修会へ参加させたり、内部で研修を行ったり、それに要した経費でございます。この中で、29年度と比べますと130万円ほどの増額となっております。その理由といたしましては、派遣職員、研修派遣で職員を派遣させておりますけれども、その行

き先、派遣先が変わることによって旅費が変わったりだとか、それとか、派遣研修で滋賀県にあります全国市町村国際文化研究所や大阪の日本経営協会でいきます研修に参加する職員の数がふえたりとか、そういった部分での増額でございます。

それから、次に、めくって、93ページをお開きください。福利厚生事業費でございます。福利厚生事業費につきましては、労働安全衛生法に基づく職場健診とか福利厚生事業の実施に係るものでございます。これにつきましては、29年度と比較すると74万円程度、ちょっとふえております。それにつきましては、職員の健康診査の委託料が若干ふえておるのですが、受診者の数がふえたりとかちょっと単価の改定があったりとかで、その部分、増加という状況でございます。

次に、347ページをお開きください。347ページの下の方に、災害被災地応援活動事業費がございます。この中で、人事課の所管分として、上から2つ目にあります特別旅費でございます。これにつきましては、大阪北部地震と、それからその後は7月の豪雨災害の被災地に対しまして、そこを支援するために職員を派遣したものでございます。

次に、歳入です。67ページをお開きください。67ページの備考欄、上から13行目に、団体生命共済事務取扱手数料がございます。これは、団体取り扱いになっていて、給料からの天引きをする事務を行っておりますので、各種保険に係る取り扱いの手数料でございます。

同じく67ページの下から10行目のところに、派遣職員給与費等負担金がございます。これにつきましては、北但行政事務組合とか但馬広域行政事務組合とか、こういった団体へ派遣しております職員の給与に係る負担金の受け入れでございます。

次に、1枚めくっていただいて、69ページ、上から4行目に、受益者負担金がございます。このうちの3つ目、職員駐車場というのがございます。これにつきましては、借地をして職員の駐車場を確保しておりますけれども、その利用者から徴収しております利用者の負担金でございます。

次に、1枚めくっていただきまして、71ページ、備考欄の下から8行目に、雇用保険料本人負担金がございます。人事課のほうでの扱いとなっておりますのがこのうち429万5,175円でございます。これにつきましては、雇用保険料の本人負担分を受け入れているものでございます。

次に、1枚めくっていただきまして、73ページ、備考欄の下から6行目に、職員健康診査助成金がございます。これにつきましては、職員の健康診査の受診に対する市町村共済組合からの助成金でございます。

その下の研修費助成金ですけども、上の市町村振興協会の分につきましては、滋賀県にあります全国市町村国際文化研修所に職員を派遣して研修を受けさせたときの分に係る助成金でございます。

その下の市町村職員共済組合の分につきましては、メンタルヘルス研修を実施することによる共済組合からの助成金でございます。

次に、1枚めくっていただきまして、75ページでございます。備考欄の中ほど、返納金の中に不当利得徴収金がございます。このうち、人事課の所管分が162万9,604円でございます。その内容につきましては、扶養手当の返納金でございます。

その次、同じ75ページの下から7行目に、給与返納金がございます。77万3,965円ですけども、この分につきましては、内容といたしましては、職員の不祥事の処分がありましたときの教育長の自主返納金、それから給与の業務の中で、合併後に採用しました職員の初任給の格付が正しいかどうかのちょっとチェック作業を行いました。その結果、調整が必要だという部分が幾つか出てまいりまして、その部分に係る返納金がございますので、収入をしております。

人事課からは以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

続きまして、中奥情報推進課長、お願いします。

○情報推進課長（中奥 実） 127ページをごらんください。情報管理費についてです。中央のやや

下にあります行政情報化推進事業費のうち、消耗品費3,023万5,305円ということで金額が大きくなってはいますが、ほとんどがソフトウェアの経費となっております。

その下の業務委託料のシステム開発業務につきましては、ネットワーク機器の更新に約7,042万円、統合型GISのデータ更新に約4,528万円などが主なものとなっております。

その下の事業用備品ですが、事業用備品については、事務用のパソコンを253台購入いたしております。

1ページめくっていただきまして、129ページの上から6行目、行政情報化推進事業費繰越明許分につきましては、新庁舎サーバーの仮想化基盤等の更新業務によるものとなっております。

歳出は以上で、歳入、77ページをごらんください。中央やや下の総務債の一番下になるんですけども、行政情報化推進事業債繰越明許分については、新庁舎サーバーの仮想基盤等の更新を行うもので、合併特例債を適用しております。以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

続きまして、安達税務課長、お願いします。

○税務課長（安達 央） それでは、144ページ、145ページをお願いします。目の20還付金及び返納金の3,060万2,905円のところです。市税過誤納還付金が最も大きいわけですけども、2,995万3,705円、前年から21.3%減となっております。そのほかの還付加算金は14万800円、返納金が50万8,400円と少額なんですけど、還付金につきましては、この減の要素なんですけど、特に法人市民税は決算年度が市の会計年度と違うことがありまして、途中で決算をくくられた場合、そうでない場合は予定で納税をされておりました、決算くくったときにその予定納税された金額を下回るようなケースでは次の年に還付をするというようなことで、マイナスが起こってくるんです。それが30年度は少なくなったということで、この分を返す必要がなくなってきたということで減に

なつたと考えております。

それから、166ページ、167ページをお願いします。まず、1の税務総務費のほうですけども、人件費の中のことなんですけども、非常勤職員、徴収専門員ですけども、この30年度から1名増員しまして、2名とさせていただいております。

それから、中段から下のほう、税務総務費ですけども、大きなものとしましては、その中の4つ目になります、負担金で、112万8,387円。このうち変動がありましたものは、兵庫県市長会軽自動車税の特別会計、これの負担金93万7,000円、これが前年から30万円ちょっとふえております。実は、これは軽自動車の異動連絡票をこちらのほうからいただいております、その枚数によって負担をしております。ところが、この会計自体、おとしまでは中に繰越金を持っておりまして、それで請求する金額も調整をしてということだったんですけど、その繰越金がなくなったことによって、30年度は増額というふうになっております。

それから、但馬行政不服審査会の、一番下ですかね、2万2,387円ですけども、これはこの30年度からとなっております。行政不服審査法の改正がありまして、28年の後半からですけども、審査の依頼をするようになりまして、事案が終了してからの請求ということで、30年度からこの負担金が生じるということになっております。その他の負担金は前年と同額です。

それから、その下のほうにあります賦課徴収費です。4,787万3,576円ですけども、次のページめくっていただきまして、5つ目ぐらいになりますかね、6つ目になりますかね、保守点検委託料521万6,292円ですけども、各種システムの保守で、大きな金を税務課としてはかけておるんですけども、前年から比べますと41万400円の減となっております。

その下にあります業務委託料1,540万5,672円につきましては、固定資産の情報に係るシステム等の業務やら、住民税のデータ入力業務などでございます。前年度になかったものとしましては、

その中で、航空写真と現地との不突合の箇所の調査をするための委託料でありまして、固定資産情報更新業務等の中に入ってるかな、それがございまして、委託料全体といたしましては前年から19万9,410円増ということになっております。済みません、今の航空写真のは54万円の分です。固定資産現地調査支援システム構築業務ということで、航空写真撮りまして、現地との違いを、不突合の箇所を調査するという目的で上げさせていただいております。

それから、負担金の341万5,093円ですけども、地方税電子化協議会、兵庫県電子自治体推進協議会等に対するもので、こういったものはおおむね前年並みということになっております。

その下ですけども、固定資産評価替事業費、手数料が890万5,680円、これは、固定資産は3年に1度評価がえがございまして、令和3年度が次の評価がえになるわけですけども、それに向けまして、宅地の路線価区域の検討、それから標準宅地であるとか主要街路の選定ということを行うための手数料でございまして。

歳出は以上です。

それでは、歳入のほうですけども、18ページ、19ページをお願いします。市税全体で申し上げますと、まず、調定額ですけども、約106億3,164万7,000円ですが、前年に比べまして1.7%の減となっております。

収入済額のところですけども、100億2,985万7,000円で、徴収率にいたしますと94.3%となっております、前年度に比べて0.6ポイントアップということになりました。このうち、現年度と滞納繰越、出ておりませんが、内訳で申し上げますと、数字しか出ておりませんが、現年度の徴収率は99%、滞納繰越は23.1%の徴収率となりました。特に滞納繰越分につきましては、前年から6.4ポイントのアップということで決算をさせていただいております。

不納欠損は4,922万7,000円、収納未済額の合計は5億5,256万3,000円ということで、収入未済額につきましては前年度から約1億

円強の減ということになっております。

各税目ごと細かくは申し上げませんが、徴収率だけ申し上げますと、個人の市民税が95.1%、法人市民税が98.8%、固定資産税で92.8%、軽自動車税94.1%、市たばこ税100%、入湯税99.97%となっております。

それから、次のページに続いていただきまして、都市計画税につきましては既に廃止させていただいております、未納となっております約991万2,000円ですけども、これだけを計上しており、58万円が収入となっております。

増減につきましては、詳細なことを検討しておるわけでありませんが、一番金額で大きかったのが固定資産の減で、1億7,781万円の減となっております。これは、30年度が評価がえの年になっておりまして、土地が、相変わらずですけども、地価の下落の影響によって下がってきたこと、それから家屋につきましても経年の減価によるもの、こういったものが大きな要因だというふうに考えております。

それから、30ページ、31ページ、お願いできますでしょうか。手数料のところですけども、総務手数料の2つ目のところに、徴税手数料でございます。その中で、市税督促手数料209万5,970円、これは前年から0.2%の増、ご承知のとおり、納期限までに納付されなかった方の督促状に係る手数料で、1件100円いただいております。税務関係の閲覧手数料24万8,100円は前年から0.4%の増、証明手数料につきましては408万9,700円で、約10.9%の減ということになっております。

それから、50ページ、51ページをお願いします。一番上にあります県民税徴収事務委託金1億2,977万8,622円ですけども、前年に比べて1.3%の増となっております。実はこの県民税の徴収委託金は、県民税徴収することの受託費としまして納税義務者1人当たり3,000円というお金をいただいておりますけども、それ以外に株式等の譲渡所得というようなものがありまして、その精算をす

るところがここしかないもので、ここに合わせて精算をいただいているものがあります。ここで前年度からの主な増額の要素としましては、株式等譲渡所得の精算分、これが200万円程度あったということで、昨年度からは増になっております。

それから、60ページ、61ページをお願いします。下から、文字が書いてあるところでは2つ目になりますけども、諸税滞納延滞金1,012万9,994円ですけども、これは、前年に比べまして35%の増ということになっております。高額滞納の案件を解消して、それに伴って延滞金もいただいたというふうなこともありまして、前年から大きく増ということになっております。

次が、64ページ、65ページお願いします。一番上ですけども、滞納処分費94万1,200円あります。これは、公売を行うために不動産の鑑定を行ったりとかインターネット公売の手数料なんですけども、それを売却代金等から充当して、ここに収入とさせていただいております。

同じく64ページ、65ページの一番下のくくりの雑入ですけども、複写料がありますが、そのうち7万4,100円が税務課の分でして、窓口で受領するコピー代ということになっております。

1ページめくっていただきまして、中段からちょっと下ですけども、他会計負担分消耗品等というのがあります。453万7,385円ですけども、そのうち1万8,083円が税務課のもので、これは、インターネット公売を行いましたときに物件の送料に該当するものですけども、それを落札者からいただいて、収入させていただいております。

それから74、75ページになりますけども、下から10個目ぐらいですけども、市税過誤納還付金返納金6,742円というのがあります。これにつきましては、税の還付になったんですけども、受け取りに来られないというような方も生じてきておりまして、これを戻し入れをさせていただいたものです。

歳入は以上です。

最後に、財産のところですけども、616ページ、

一番後ろのほうですが、よろしいでしょうか、債権のところ。個人の市民税、毎年、特別徴収の4、5月分は前年度に請求しますが、収入自体は翌年度ということで、2カ月分を債権ということで計上させていただいております。前年度末が3億8,977万5,000円、決算年度、今年度末が4億1,924万8,000円ということでございます。以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

じゃあ、続きまして、三笠会計課長、お願いします。

○会計課長（三笠 孔子） それでは、歳出のほうから説明させていただきます。95ページをお開きください。下のほうですけど、会計管理費です。これは、会計事務に係る経費なんですけど、前年度に比べて700万円ほど増加しております。

次のページ、97ページで一番上の囲みの一番下なんですけど、業務委託料、OCRシステム更新業務、これが698万7,600円ということで、この分が増加しております。これは、光学式の読み取り装置、税金の納付書なんかを読み取る装置で、消し込みをする機械なんですけど、これの機械も含めて更新をさせていただいたということで、この分が増加しております。

続きまして、99ページをお開きください。下のほうですけど、基金管理費8億3,760万7,982円のうち、利子の分です。その後、ずっとそれぞれの基金積立金（利子）って書いてある分の合計額が会計課の所管でして、この合計が1億868万455円となっております。これにつきましては、基金を運用した利益をそのまま積み立てております。

続きまして、101ページです。各基金にプラスして、真ん中からちょっと下の辺に、土地開発基金繰出金（運用利子）というのがあります。72万6,614円、このうちの基金の運用利子が21万394円となっております。これにつきましても、積み立てをさせていただいております。

それでは、歳入のほうに移ります。53ページをお開きください。真ん中の辺に、基金運用利子があります。財政調整基金利子以下あるんですけど、合計が1億1,018万8,479円となっております。この各基金のうち、福祉基金、それから水と土保全対策基金、それから植村直己顕彰基金、東井義雄遺徳顕彰基金が、果実運用といいまして、それぞれの事業に特定財源としてその現年度に充当している分、この分が129万7,630円となります。そのほか残りの1億889万849円、先ほど歳出のほうの積立金と土地開発基金の繰出金合わせた額になります。それをこの収入から支出というか、積み立てをさせていただいております。この1億1,000万円ほどのうちの主なものは、金銭信託の利子が9,000万25円となっております。これは、財政調整基金に4,999万9,999円、それから地域振興基金に4,000万26円、それぞれ入っております。金銭信託につきましては、30年度は利子の利率が上限になりまして最高額となっております、前年度よりも利子合計が約3,000万円、金銭信託の利子がふえた分ふえております。

なお、地域振興基金の金銭信託の分につきましては、30年度で目標額を達成しましたので、10億円の元金は戻ってきております。

それから、続きまして、61ページをお開きください。一番下です。預金利子22万9,133円、このうち会計の分は22万632円です。これは、歳計現金、通常出し入れをしております現金の余裕金ですね、たくさんお金があるときには、そのままにしておきますと利子につきませんので、定期預金で運用しております。その分の合計になります。

続きまして、67ページです。上から2行目の請求書用紙ということで、これは市伝票を買っていただいた分の収入になります。

続きまして、69ページをお開きください。一番上の会計事務負担金です。これは、北但行政事務組合、それから但馬広域行政事務組合のそれぞれ伝票処理を会計のほうでしておりますので、その事務費負担金を毎年いただいているものです。

会計課は以上です。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、続きまして、中地消防本部総務課参事、お願いします。

○消防本部総務課参事（中地 修） 101ページをござんください。下から7行上にあります財産管理費についてご説明いたします。

次のページをござんください。上から5行下にあります設置工事費、フェンス等のうち137万1,600円が消防本部所管分で、豊岡市気比にありませんデジタル無線港基地局のコンクリートブロックが倒壊する危険があるため撤去し、フェンスを設置したものでございます。

続きまして、常備消防費についてご説明いたします。333ページをござんください。まず、中段にあります職員研修費でございますが、兵庫県消防学校へ新規採用者3名と消防大学校へ1名を派遣した研修に係る経費が主なものでございます。

次に、一般管理費でございますが、下から3行上にあります業務委託料、耐震診断業務は、豊岡消防署、日高・出石分署、竹野出張所の各庁舎について耐震診断を実施したものでございます。

その下、消防力適正配置等調査業務は、消防力整備計画を策定するために実施したものでございます。

次のページをござんください。中段にあります消防活動事業費でございますが、4行下の消耗品費は、台風や豪雨により冠水した場所での活動用として胴つきの長靴の整備が主なものでございます。

高度救急活動事業費でございますが、4行下、消耗品費は、豊岡自動車道路の延伸に伴い、大型バスや複数台の車両事故により多数の傷病者発生に備え、外傷処置セットなど救急処置用の消耗品の整備が主なものでございます。

次ページをござんください。救助活動事業費でございますが、7行下、事業用備品は、警防訓練強化による安全管理の徹底を図るため、安全マットを整備したものでございます。

続いて、中段の情報通信設備管理費でございますが、10行下、業務委託料の火災メール配信システム更新業務は、運用中の配信サービスが終了するため、新たなサービスの移行に係る経費でございます。

3行下の事業用備品は、新元号の対応を含め、消防応援システムの更新に係る経費でございます。

続きまして、消防庁舎管理費でございますが、4行下の修繕料は、日高分署の車庫シャッター、但東駐在所の配水管修繕が主なものでございます。

次のページをごらんください。上段から12行下、設置工事費、仮眠室用ベッドとその下の常用備品は、職員2名の増員に伴い、豊岡消防署に仮眠室ベッドの増設工事と事務用机、防火着のロッカーなどを整備したものでございます。

次のページをごらんください。消防施設費についてご説明いたします。10行下、城崎分署竹野出張所消防設備・施設整備事業費は、竹野出張所配備の消防ポンプ自動車を更新したものでございます。

次のページをごらんください。3行下、日高分署消防設備・施設整備事業費は、日高分署に配備しました高規格救急自動車と広報車を更新したものでございます。

347ページをごらんください。中段より少し下にあります災害被災地応援活動事業費でございますが、86万9,471円が消防本部所管分で、平成30年7月豪雨における緊急消防援助隊として災害派遣に係る経費でございます。主なものといたしまして、10名分の旅費、感染防止着、マスクなど消耗品に係る経費でございます。

次に、歳入について説明させていただきます。33ページをごらんください。消防手数料でございますが、危険物申請手数料として65件分の90万7,900円、1行下の消防証明手数料として70件分の2万1,000円を収入いたしております。

次のページをごらんください。中段にあります消防費国庫負担金についてご説明いたします。平成30年7月豪雨における緊急消防援助隊活動費の負担金としまして、133万504円を収入いたしております。内訳は、10名分の派遣に係る手当、旅

費、車両の燃料代、感染防止着などの消耗品が主なものでございます。

続きまして、67ページをごらんください。中段より少し下にありますトンネル非常警報盤管理として委託を受けています3カ所分の117万6,000円を収入いたしております。

71ページをごらんください。中段にあります防火管理者資格取得講習受講料として、受講者118名分の53万1,000円を収入いたしております。

続きまして、79ページをごらんください。一番下の行、消防債でございますが、消防防災施設整備事業債の1行下にあります消防ポンプ自動車のうち4,890万円が消防本部所管分で、竹野出張所配備の消防ポンプ自動車を更新したものでございます。

次のページをごらんください。1行目にあります消防指揮広報車のうち500万円が消防本部所管分で、日高分署配備の広報車を更新したものでございます。

1行下にあります高規格救急自動車は、日高分署配備の高規格救急自動車を更新したものでございます。以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、宮岡選管監査事務局長、お願いします。

○選管・監査事務局長（宮岡 浩由） それでは、166、167ページをお願いいたします。166、167ページの税務総務費のうち監査委員事務局の所管分についてご説明いたします。

まず、委員報酬13万8,200円でございますが、固定資産評価審査委員会委員3名の方への報酬でございます。審査申し出が5件ございました。都合10回の委員会を開催いたしております。

同じくこの税務総務費の下から6行、固定資産評価審査委員会費2万2,084円でございますけれども、これは委員会の経常的な運営費でございます。

続いて、170、171ページをお願いいたします。選挙費のうち選挙管理委員会費ですが、重立ったものについてご説明をいたします。委員報酬14

0万4,000円につきましては、選挙管理委員会委員4名の方への月額報酬でございます。

次のページ、172、173ページをごらん願います。選挙管理委員会費、総額31万7,872円となっておりますけれども、こちらも委員会の経常的な運営費でございます。

この同じページの県議会議員選挙費でございますが、平成31年3月29日告示、同年4月7日に投開票が予定されていたものですが、結果的には無投票となりました。しかしながら、選挙執行に向けて平成30年度中に準備を要した経費がございます。これが総額732万8,273円ございました。支出済額の内容ですが、選挙事務の補助としての臨時職員に係る人件費を初めとしたしまして、ポスター掲示場の設置経費、備品として投票用紙計数器や投票所用の軽量スロープの購入費、その他選挙に必要な種々の費用となっております。

続いて、176、177ページをごらん願います。監査委員費ですが、こちらも重立ったものについてご説明を申し上げます。委員報酬281万5,199円は、監査委員3名の方への月額報酬でございます。監査事務費、総額86万3,971円は、監査委員事務局の経常的な運営費でございます。

なお、次のページ、179ページになりますが、上段の委託料6万9,000円が未執行として不用額に計上されております。これは、随時監査として工事技術監査において専門の技術士を要する機関へ監査事務そのものを委託しているものですが、平成30年度は時期的に工事担当課で災害復旧への対応に追われており、結果的に実施できなかったものでございます。

歳出は以上でございます。

続いて、歳入ですが、50ページ、51ページをごらん願います。50ページ、51ページ、選挙費委託費でございます。総額で732万9,129円でございます。兵庫県議会議員選挙の事務費として兵庫県から交付されたものが、先ほど歳出で申し上げた支出済額と同額の732万8,273円

でございます。このほか、在外選挙人名簿の登録事務費として2件分、856円が交付されております。

続いて、67ページをごらん願います。67ページ、雑入のうち、末尾に記載の監査事務負担金についてでございます。これは、北但行政事務組合と但馬広域行政事務組合の監査事務を受託しております、その事務負担に係る人件費相当額を負担金としてそれぞれの組合からいただいているものです。総額で49万5,488円でございます。

選挙管理委員会、監査委員事務局からは以上でございます。

○副分科会長（浅田 徹） ありがとうございます。

それでは、説明は終わりました。

ここで分科会を暫時休憩いたします。再開は2時15分でございます。

午後2時05分 分科会休憩

午後2時14分 分科会再開

○副分科会長（浅田 徹） それでは、休憩前に引き続き分科会を再開します。

先ほどの説明に対しまして、質疑はございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 会計課長に教えてほしいんですけども、先ほど説明の中で、金銭信託の10億円は除くと、30年度に、と言われたんですけども、たしか4口あったのかな、35億円だと記憶あるんですが、この金銭信託の現状、今どうなってるのか、それぞれがというのと、30年度に戻ったというのは、決算上はどっかにあらわれるんですか。出とりゃ、それは返ってきたもんだから、10億円収入になるのかなというあたり、ちょっと聞かせてもらえますか。

○副分科会長（浅田 徹） 三笠課長。

○会計課長（三笠 孔子） まず、10億円をどうしたかっていうことなんですけど、財産調書の一番後ろ、618ページをお開きください。ここに、(2)のところ基金の保有状況というのがあります。一

且、基金で出してますので、その中をどういうふう
に運用するかっていうことで、それぞれ現金、信託、
有価証券、奨学金、貸付金という項目がありますけ
ど、前年度末現在で信託っていうところが20億円あ
ったのが、決算年度末は10億円になっているとい
うことで、ほとんどっていうか、基金が減った分と、
それから現金、預金のほうにそれが回っているって
いうような状況になります。

それと、現在それぞれの金銭信託がどうなってる
かっていうことなんですけど、4本もともとありま
して、2本につきましては、1本が平成24年度、
5億円分、それから10億円分が26年度に終了し
て、それぞれその元金はその年の基金のほうに返っ
てきているということになります。30年度、元地
域振興基金で原資にしていた分の10億円が目標
額を達成したということで返ってきておりまして、
先ほど言いましたように、預金のほうに回させてい
ただいてる。それで、あと残りが財政調整基金を原
資とします金銭信託が1本残っております。これも
平成19年の6月に契約をしまして、30年度の為
替レートの状況が円安でずっと来ていて、110円
以上みたいなことになっていたんで、30年度は上
限それぞれ5%、4%の利率が得られたんですけど、
残りがあと目標額に2,438万5,982円にな
っています。去年のレートでいくと、今年度、1回
目で2500万円ぐらい、5%の利益が得られれば
終了して、その分も元金が返ってくることになるん
ですけど、4月以降、もうすごく円安傾向で、特に
8月に入ってからぐっと円安になりまして、104
円台とかっていうふうになってしまいましたので、
ちょっと今年度、これが目標達成するのは難しいか
なという状況になっております。ただ、先が見えて
きたというか、あと2,400万円ほど利息が入っ
てくれば終了するというような状況になっている
ということで、4本中3本はもう元金が返ってきて
いるということです。

○副分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ひところ、随分、私たちも問
題にした時代があったんですが、気づいたら言わん

ようになって、結果としてはもう既に無事に3本は
用をなして、ちゃんと働いて、収入もして終わった
と。あともう一つということで、結果としてはよか
ったなと思いますけども、どうぞ二度とこういうと
ころに投資せんように、これはお願いしときたいな
と。これ、行政がすべきことではないというのが
当時もいろいろ、政府もそういうことを言った時代
もありますので、結果論としてはよかったけども、
ということを思います。

それから、もう1点いいですか、続けて。

○副分科会長（浅田 徹） はい、どうぞ。

○委員（村岡 峰男） 市民税の関係で、超過課税の
問題ですが、超過課税ね、市民税の個人、あるいは
法人、あるいは固定資産税、それぞれの超過課税額
というのは幾らになりますか。それ、決算書ではわ
かりませんね。書いてあるところあった。

○副分科会長（浅田 徹） 安達課長。

○税務課長（安達 央） 決算書で、ここを出して
おりません。ちょっと私も資料は持ってきておりま
せんが、法人市民税の場合には超過課税といいまし
ても段階ごとにありますので、これ、それぞれに分
けてということにはせんなんですけども、固定資産
税、市民税については、率だけですので、それで割
り戻して出していただくというふうに見ていただ
けたらなと思っております。済みません、ちょっと
今、数字持ってなかって、申しわけないです。

○副分科会長（浅田 徹） 安達課長。

○税務課長（安達 央） そしたら、この決算の数
字と、それと超過課税等標準税率分と分けたものを、
合計になってもよろしいですかね、後ほど届けさせ
てもらおうということでもよろしいでしょうか。

○副分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 私がそういう質問するっての
はわかってるわけですね。こんなことぐらいのあれ
は用意してほしいな。市長も言ってるでしょ、市
長にやられたけどな、そういうことからいっつもや
っぱりこれは私が質問するっていうのはわかっ
るわけで、お願いしたいなと。

それで、私自身がいただいた資料を見ると、お願

いをした資料でね、どこを見たかいな、超過課税相当額、2018年で、これでもわかるんだよな。

○副分科会長（浅田 徹） 簡潔に。

○委員（村岡 峰男） これでもわかるんで、資料ください。いずれにしても、相当な超過課税になるということと、ついでに、個人市民税の超過課税は全国で豊岡市だけっていうふうに聞いとるんですが、間違いありませんか。それから、法人の市民税の超過課税についてはどの程度かっていうのはわかりませんか。どの自治体の数という状況はわかりませんか。

○副分科会長（浅田 徹） 安達課長。

○税務課長（安達 央） ちょっと私が今、資料持ってきてなかったんですけども、主要な施策の成果を説明する書類の中に超過課税分、それぞれ数字が上がっておりますので、そこをごらんいただけたらと思います。6ページになります。数字はそのとおりでございます。

それと、超過課税の団体数の話なんですけども、市民税のほうは豊岡市だけというふうに、ほかでは聞いておりません、個人の市民税は。法人市民税につきましては、かなりの数ありまして、年によって数字も違いますもんで、今ここでちょっとお答えするような数字を持っておりません。

○副分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） いずれにしても、個人市民税の超過課税は、かつて北海道、夕張もあったけども、夕張市がやめた。やめたっていうふうに聞くんですね。ですから、いよいよ豊岡だけだということですので、市長は顔を真っ赤にして絶対やめないと言うけども、市民の側から見ると、全国にない税……、これは討論……。

○副分科会長（浅田 徹） 質疑をお願いします。

○委員（村岡 峰男） まあまあ、それでええわ。

○副分科会長（浅田 徹） ひとつよろしくお願います。

ほかにございませんか。

三笠課長。

○会計課長（三笠 孔子） 先ほど説明で、ちょっと

円高と円安を反対に言ったみたいなので、訂正させていただきますと思います。

○委員（村岡 峰男） 円安って言いなつたな。

○会計課長（三笠 孔子） はい。円高傾向です。済みません。

○副分科会長（浅田 徹） はい、了解しました。委員の皆さんから何かございませんか。質疑はございませんか。

足田委員、どうぞ。

○委員（足田 仁司） ワークイノベーションのほうで、109ページ、市内の事業所及び女性従業員、ヒアリングを行ったというような説明があったと思うんですけど、そういうヒアリングを行った、どういうのかな、どんな項目を尋ねたのか、その項目はどのような形で次年度なりに生かしていこうとされたのか、ちょっとわかりやすく説明をお願いしたいです。

○副分科会長（浅田 徹） 上田ワークイノベーション室長。

○総務部次長（上田 篤） 今の足田委員のご質問に対してなんですが、ワークイノベーション戦略、ことしの1月に策定してるんですけど、それに向けて、市内の事業所、合計20事業所で、まず、女性従業員というのは未婚の女性従業員と結婚されて、子育て中の女性従業員の方それぞれ合計で20数名の方に対して、働きやすさと、あと働きがいについて、それぞれの事業所において、どのようにお感じになってるのかっていうことについて、女性従業員に対してはお聞きしています。

あわせて、経営者に対して、これも10数事業所だったと思うんですけど、経営者に対して、従業員の働きやすさと働きがいに対して、どんな工夫を凝らしておられるのかとかどんな課題感を持っておられるのかっていうあたりをお聞きして、このワークイノベーション戦略の策定に向けた市内事業所の課題を浮かび上がらせる、で、それに対してどういうふうな手を打つのかっていうことに対してまとめていく、参考にさせていただきました。

その中には、女性従業員の中から特にどうしても

産休とか育休と、あと短時間勤務という制度はあるんですけど、なかなか職場の中でとりづらいという、そういう職場の文化というか、風土があるとか、上の役職まで自分になっていこうという気はなかなかないとか、かなりちょっと厳しいそういうご意見をたくさんいただいております。以上です。

○副分科会長（浅田 徹） 足田委員。

○委員（足田 仁司） はい、わかりました。

これは、いずれ市内事業所全体に波及させていかれると思うんですけど、どのような構想で波及をさせていこうと考えておられるのか、ちょっと伺います。

○副分科会長（浅田 徹） 上田推進室長。

○総務部次長（上田 篤） 昨年の10月に豊岡市ワークイノベーション推進会議という、当時は16事業所で、ことしの4月にはもう21事業所にふえてるんですけど、そういう推進会議のメンバーの事業所を中心に、女性にも働きやすくて、働きがいがあると感じる職場をどんどんふやすことによって職場のジェンダーギャップというのを解消して、これを切り口として町全体のジェンダーギャップの解消につなげていくということで今、進めているんですけど、その中で、例えば可視化というんですか、実際そういう努力、努力というのは働きやすくて、働きがいがあるという、そういう事業所、職場にしていこうという、そんな努力をされてる、一定の基準に達しているそういう事業所について、表彰制度を、これ新年度、2020年度なんですけど、に設立しようというふうに考えてまして、実際そういうこと、先進っていうか、お手本となる事業所を、中身を可視化することによって、それを例えば推進会議の事業所以外の、市内だと全部で5,500事業所あるんですけど、そちらに徐々に、一歩ずつ一歩ずつつめていく、波及させていくというふうに考えております。

○委員（足田 仁司） はい、わかりました。

○副分科会長（浅田 徹） ほかにございませんか。

それでは、これで質疑を終わります。

以上をもちまして第87号議案についての説明、

質疑は終了し、休憩の後、討論及び表決を行いたいと思いますが、ここで、委員の皆さん、当局職員の皆さんから何かございましたら発言をお願いしたいと思います。

ないようでしたら、当局職員の皆さんにつきましては、これで退席をしていただいて結構でございます。明日18日水曜日でございますけども、委員会審査は9時30分から当委員会室で行いますので、よろしくお祈りしたいと思います。本当にご苦労さまでした。

それでは、分科会を暫時休憩いたします。再開は2時40分、お願いします。

午後2時32分 分科会休憩

午後2時43分 分科会再開

○副分科会長（浅田 徹） それでは、休憩前に引き続き、分科会を再開します。

第87号議案の審査につきまして、先ほど質疑まで終わりましたので、討論に入りたいと思います。

討論はございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 私は、先ほど言いましたけども、市民税並びに固定資産税の超過課税についてはいつまで続けるんやと。もともとが都市計画税が豊岡市だけに、旧豊岡だけあって不公平だから、これをやめて、その財源を確保するために市民税と固定資産税に財源を求めたということについては当時、いろいろ議論はあったんですが、議会としても当時の経緯はあるんですが、それをいつまで続けるかという、終わりなき超過課税を、私はもう議会の力ででもこれはやめさせなきゃならんと違うかと。私は、本会議でもちよろっと言いましたけども、いきなり固定資産税も含めて全部をやめたら5億円という、そのことは全く理解してないわけではないので、まずは市民税の、特に個人市民税の超過課税からでも廃止に踏み切るべきではないかということを考えています。

一方で、そういう全国でも豊岡だけという市民負担を求めながら、我々が要求する子供の例えば医療

費なんかは全国で90%の自治体が既に何かの形で無料化に踏み切っている。これをいろいろ市長は言いますが、いまだに有料化、ゼロ歳も含めて有料というね。取るもんは取って、出すもんは出さんと、対市民に対してですよ、いう典型になるような気がしてなりません。したがって、私は、この認定議案については同意しかねると、この1点で。ただ、ほかの委員会との関係もありますから、全体としてはもう少しふえるかもしれないけども、当委員会の関係では以上です。

○副分科会長(浅田 徹) ほかにございませんか。
清水委員。

○委員(清水 寛) 私のほうからは、本決算について賛成という立場での討論させていただきます。
今回の30年度決算においても、歳入は対前年度比15.9%減ということで、超過課税約5.1億円を収入してなお市税全体としては0.9%の減です。実質収支8.2億円の黒字ということではありますが、歳出全体では対前年比18%の減という結果での黒字ということもありまして、実質単年度収支では3.7億円の赤字ということでした。超過課税は都市計画税の廃止に伴う市民福祉に資する代替予算として市議会で認めてきた経緯もありますし、市民の日々の暮らしを着実に支え続けて、災害、コミュニティ、経済、財政の4つの危機から脱却するためにも、超過課税の廃止は現時点ではちょっと同意できません。

今現在、30年度も行政改革や公共施設再編などの歳出の見直しも進められてますし、生産性向上などの人手不足対策や産業育成など人口減少対策にも総合的に取り組むなど、市民福祉に資するさまざまな事務、事業が実施されてきました。ですので、市民税、固定資産税の超過課税分を含む本決算は適切妥当であり、認定すべきであると思います。以上です。

○副分科会長(浅田 徹) ほかにございませんか。
では、討論を打ち切ります。

それでは、賛成、反対の意見がございますので、委員、ちょっときょうはお二人いらっしやいません

けども、挙手による採決をいたします。

本案は、認定すべきものとするに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○副分科会長(浅田 徹) 賛成者多数によりまして、第87号議案は、認定すべきものと決定いたしました。

それでは、次に進めます。

3の協議事項でございます。分科会の意見、要望のまとめについてでございます。ここで、当分科会の意見、要望として予算決算委員会に報告すべき内容について協議をしたいというふうに思います。今回の説明等も含めてでございますけども、いかがでございますでしょうか。どうもつけるというふうなことでもございません。非常に何か特徴的なことで、きょうの職員の皆さんの説明等も含めてですけども、非常に問題、疑義がというようなところ、また、さらには、強く改善を求めたいというふうなこと等の内容についてということで理解するわけですけども。

それでは、意見、要望を付するということにつきましてはございませんので、そのように決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副分科会長(浅田 徹) はい、わかりました。

それでは、一応、これで分科会を閉会させていただきます。

午後2時49分 分科会閉会

午後2時49分 委員会再開

○副委員長(浅田 徹) それでは、委員会を再開させていただきますと思います。

協議事項の3、その他でございます。委員の皆さんから何かございましたら、ご発言をいただければと思います。何かその他ございませんでしょうか、これ、委員会のほうでございますけども。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副委員長(浅田 徹) ないようでしたら、以上をもちまして本日の総務委員会を閉会したいと思います

います。

明日18日水曜日でございますけども、委員会審査は午前9時30分から当委員会室で行いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。どうもお疲れさまでした。どうもありがとうございました。

午後2時50分 委員会閉会
